

留学生と日本人学生のための“会話パートナープログラム”

会話パートナー・ハンドブック

Ver.3

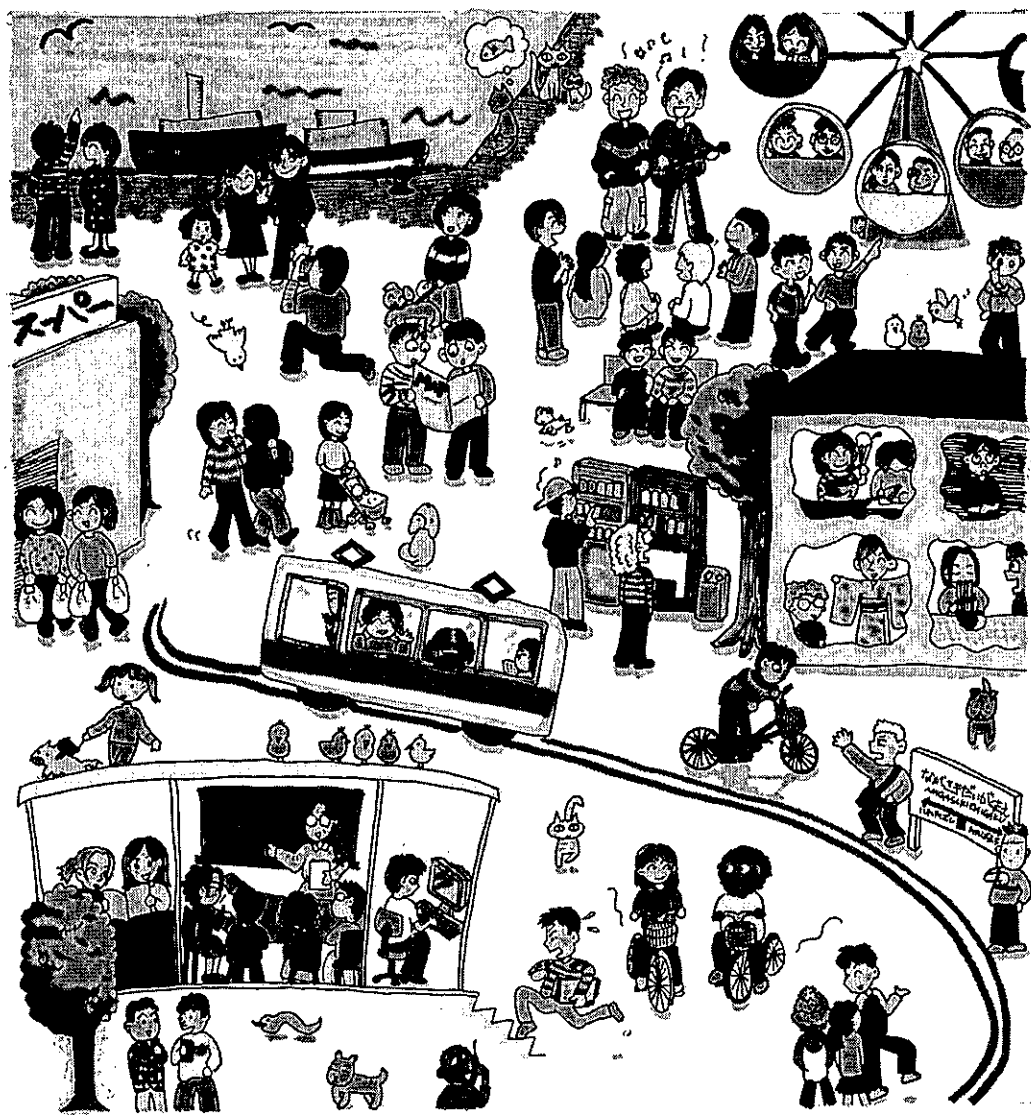


長崎大学留学生センター

留学生と日本人学生のための“会話パートナープログラム”

会話パートナー・ハンドブック

Ver.3



長崎大学留学生センター

はじめに

留学生と交流を持ちたいと考えている日本人学生の皆さんで、どうやら留学生と交流する機会が持てるか、わからないでいる人も多いことと思います。また、留学生と話すには英語が必要で、自分は英語ができないから、留学生と話すなんて無理だと思っている日本人学生も多いようです。これに対して、多くの留学生がもっと日本語が上手になりたいし、日本人学生と知り合いになって日本のことについてももっと知りたいと思っています。

その一方で、せっかく知り合いになったけど、ほとんど会わないまま関係が消滅してしまったという話もよく聞きます。この場合、日本人学生はというと、留学生と会っても会話が続かないし、一緒に何をすればいいのかわからなくて、結局連絡を取らなくなってしまったというケース。または、語学の練習ができると思っていたのに、そうじゃなかったというケースです。逆に留学生の方は、日本人学生はいつもアルバイトで忙しそうだし、会ってもはっきり物を言わないし、なにがしたいのかわからない。それに、自分と友だちになりたいのではなくて、言葉の練習がしたいだけみたいだと感じていたようです。

こうした状況を知るにつけ、出会いの段階では、ニーズと目的のハッキリした、でも、その後活動が続けて行く段階では、留学生と日本人学生双方の自由意志を尊重したプログラムが必要だと思いました。これを形にしたのが、留学生と日本人学生のための“会話パートナープログラム”です。

会話パートナープログラムを通して、留学生と日本人学生が、**日本語を基本的な媒介言語**として、お互いに学びあい、双方の国や文化についても理解を深めていく機会になればと思っています。

2004年3月

長崎大学留学生センター 松本久美子

目 次

会話パートナープログラムについて	1
会話パートナー・ハンドブックについて	3
会話パートナー活動初日	5

コミュニケーションの取り方	9
1. 異文化コミュニケーション能力	10
2. 「日本語」によるコミュニケーション	11
3. コミュニケーションの相手としての態度	18
4. 留学生の国についての質問	21

日常生活にまつわるエピソード集	25
1. 買い物	27
2. 料理	31
3. 食事	34
4. 食べ物失敗談	37
5. 生活様式	39
6. 時間感覚	40
7. 友人関係	43
8. 愛情表現	48
9. ほめる時、ほめられる時	51
10. 誘い・断り・約束?	54
11. 宗教	56
12. 日本語にまつわるエピソード	58

会話パートナーを経験して(学生 3 人の座談会)	61
--------------------------	----

<付録>

- 会話のトピック 100
- 日本地図
- 世界地図
- 長崎大学の組織(学部・大学院)

留学生と日本人学生のための “会話パートナープログラム”について

会話パートナープログラムへようこそ！！

会話パートナープログラムに参加することが決まった人は、**会話パートナーのML(メーリングリスト)**に登録されます。このMLは会話パートナープログラムと留学生センターの日本語コースの中で行われている「留学生と日本人学生の会話合同クラス」に参加している日本人学生のために設けられています。

このプログラムは、クラブやサークル活動と違って、特に決まりはありません。**出合いのきっかけ**は提供しますが、その後の活動の内容はパートナー同士で話し合っ**て、自由に決めていくこと**になります。

参考までに、アンケート調査の結果によると、会話パートナーとしての活動のペースは**1週間に1回、1時間から2時間**ぐらいというのが平均のようです。場所は留学生センターのロビー、学生食堂、長崎大学国際交流会館(留学生宿舍)等が多いようですが、ほとんど毎日会っている人や週末いっしょに食事や遊びに出かけたりしている人もいます。

継続的に会話パートナーとして活動している日本人学生の中には、単なる会話のパートナーではなく、留学生と友人関係を結んでいく人も出てきています。お互いの友人を紹介しあい、それぞれの活動の場を広げているようです。

<留意事項>

- ・ 会話のための場所と時間は、留学生と話し合ってお互いのスケジュールに合わせて自由に決めてください。
- ・ 留学生と連絡が取れ、会う場所と時間が決まったら、メールで連絡してください。
- ・ 活動する中で疑問が出てきた場合や、会話パートナーとして活動している他の人たちと共有したい情報などがある場合は、会話パートナーの ML を活用してください。
- ・ こちらの連絡も基本的にすべて ML 上で E-mail を通じて行います。
- ・ 留学生の会話パートナーとして活動した方には、期の最後にアンケートをお願いしています。御協力をお願いします。
- ・ 会話パートナーに期限はありません。続けるかどうかは皆さんの自由意志です。(アンケートの中に、今後も同じパートナーと活動を継続していくかどうかについての質問があります。)
- ・ ただし、いろいろな理由で定期的に活動が行えなくなったときには、ML を通じて連絡をお願いします。
- ・ ML 上ではなく、個人的に質問がしたい場合は、松本のメールアドレス (kumiko-m@net.nagasaki-u.ac.jp) へどうぞ。または、研究室を覗いてみてください。

会話パートナー・ハンドブックについて

何を？ どんな日本語で？

留学生の会話パートナーになったけど、でも、何を話せばいいの？
どんな日本語を使えばいいんだろう？



初めて会話パートナーをするにあたって、「ちゃんと日本語が通じるかなあ...」とか、「どんなことを話したらいいんだろう？」「聞いたら失礼なことがあるかなあ」とか、不安な点もあると思います。実際、相手の留学生の日本語のレベルはまちまちですし、話題に詰まったりすることもあるでしょう。

そんなとき、このハンドブックを開いてみてください。

また、留学生センターの日本語コースの中の「留学生と日本人学生の会話合同クラス」で会話の補助教材として使用している『留学生と日本人学生のための会話素材集 Ver.3 -Let's get to know each other better!-』（長崎大学留学生センター発行）もあります。パートナーの留学生が日本語を勉強し始めたばかりの時は、会話のきっかけや補助として、役に立つかもしれません。このハンドブックの中にも、会話素材集の中の 100 のトピック名をあげておきました。参考にしてください。

「異文化」との出会い、そして「自分」との出会い

パートナーと活動が続けていく中で、いろいろな考え方の違いが見えてく
ると思います。時には、衝突したり誤解が生じることがあるかもしれません。そ
れは**文化の違い**によるものもあるでしょうし、**その人の個性**かもしれません。

日常、皆さんが気にも留めないこと、当然だと思っていることを、パートナ
ーから、「なぜ？」「どうして？」と聞かれて戸惑うこともあると思います。そん
なとき、このハンドブックの内容がヒントになればと思っています。

そして、会話パートナーの体験から学んだこと、弾んだ話題、面白いエピ
ソード等があれば、ぜひ、ML に投稿してください。

それでは皆さん、パートナーとの会話を楽しんで下さい！



会話パートナー活動初日

お互いを知るための第一歩！ まずは自己紹介から。

- * あなたにとって、留学生の名前やホームタウンの地名が耳慣れなくて、発音できなかつたり書き取れないように、留学生にとっても、日本人の名前や地名は耳慣れなくて聞き取れない場合が多いようです。書きながら、繰り返し、ゆっくり発音したり、書いてみるのもいいでしょう。

そうです！ 留学生と会うときに、ペンとノートは必携ですよ！



あなたのパートナーはパラグアイからの留学生です。名前は Rossana さんです。

A: はじめまして。・・・です。どうぞよろしく。

A: お国はどちらですか？/ 出身(ホームタウン)は？

- ・ あなたはパラグアイがどこにあるか、知っていますか。
(付録世界地図参照)
- ・ 彼女の名前をちゃんと発音できますか。カタカナで書いたとしたら、どう表記するのが適当でしょうか。

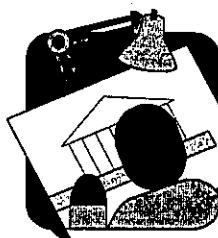
A: いつ 日本へ来ましたか？

A: どうやって来ましたか？/どんなルートで来ましたか？

- ・ 留学生の中には、二日ぐらいかかって来日する人もいます。どうやって、どんなルートで来たのか聞くのもおもしろいと思いますよ。地図を片手に頑張ってみてください。

A:・・・さんの専門は？

- ・ 留学生は、中国からの留学生でない場合、自分の専門を英語で言うことが多いかもしれません。付録の長崎大学の組織表（日本語・英語対照）を参考にしてください。



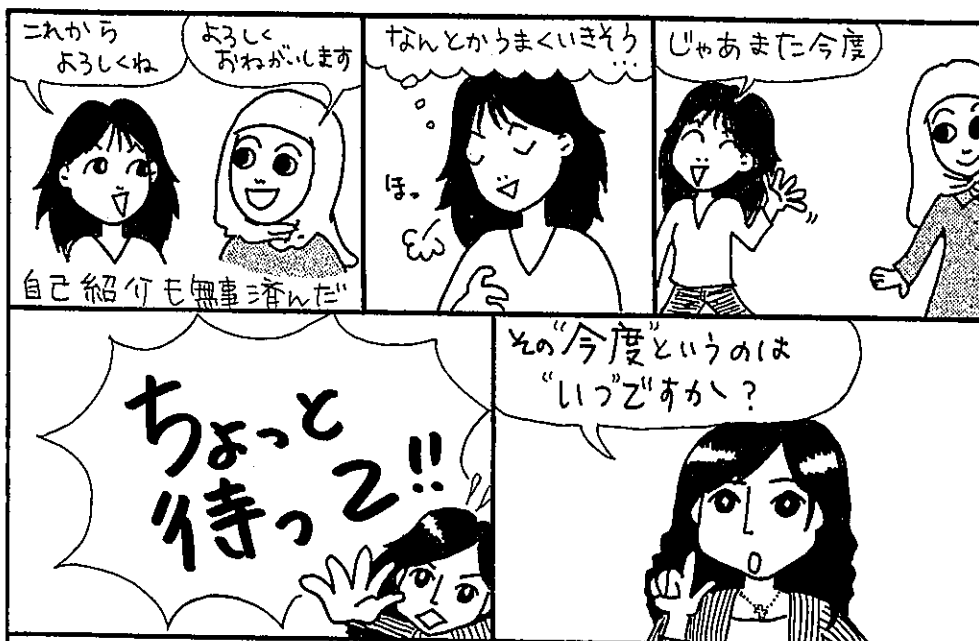
A:趣味は何ですか。

何が好きですか？

- ・ 自分の趣味を聞かれて、答えることができますか。特に趣味はないと思っても、何か好きなことを答えるといいですね。そこから、次の話題が生まれてくるでしょうし、何かを一緒にするきっかけになるかもしれません。



次回の約束を忘れずに！



- まず、基本的に毎週会う曜日と時間、それから場所を決めておきましょう。その時、手帳やカレンダーを見ながら、書いて確認することをおすすめします。ちなみに、4日と8日、1時と7時はよく間違っパターンです。(試しに自分で発音してみてください。)

- 決めた時間は、もちろん連絡あつて変更可能ですが、なるべく決めた日時は変えないようにしたほうがいいかもしれません。すれ違いが重なって、パートナーとしての関係が自然消滅、ということもあるようです。



- やむを得ず予定変更になった場合、次回の約束を忘れずに！
その時も、「また、電話するね。」ではなくて、「今晚、9:00頃電話するね。」というように、具体的に約束しましょう。これは、パートナーの留学生と信頼関係を築いていくうえで、とても大切なことです。



コミュニケーションの取り方

わたし、英語、苦手なんだけど。。。

わたしは英会話の練習がしたいなあ。

えっ!! 留学生は日本語が上手になりたいんじゃないの?

日本語で話さなくっちゃ!!

日本語で!? でも、どんな?

それに、何を話せばいいんだろう?

わたし、留学生の国のこと、何にも知らないんだよね。

こっちから聞いちゃいけないこととか、あるのかなあ。

それに、何か知らないこと聞かれたら、どうしよう。

黙ってたら「あっ、わかんないんだ」って思ってくれるかな。

笑ってごまかすとか?

.....というようなことが頭をよぎっている皆さん!

ぜひ、次のページをめくってみてください。

コミュニケーションの取り方

期の最後をお願いしているアンケートの結果等を見ると、会話パートナーを続けていくうえで、留学生とのコミュニケーションに困難を感じている人も少なくないようです。そこで、ここでは、留学生とコミュニケーションを取っていくうえでの留意事項について述べてみたいと思います。

1. 異文化コミュニケーション能力

コミュニケーションのスタイルは、文化によって、また個人によっても違います。異なる文化的背景を持つ留学生とのコミュニケーションを考えると、文化の**多様性**を認め、受け入れ、そこから学ぶ姿勢が必要とされます。

留学生によって日本語のレベルはかなり違いますし、留学生とコミュニケーション上の問題が起こった場合、言葉そのものに問題を求めがちですが、実際には他に原因があることが多々あります。

どんなに文法的には完ぺきなことばを話しても、お互いの文化的な背景の違いから、話が通じなかったり、十分な理解ができなかったり、誤解を引き起こす原因になったりすることがあることを、心に留めて置いてほしいと思います。

また、コミュニケーションの手段はことばだけではありません。顔の**表情**や**視線**、**笑い**や**沈黙**、様々な**動作**も大きな役割を果たしています。**身体的な接触**の仕方や頻度、相手との**距離の取り方**なども、文化によって、また、個人によっても違ってきます。

会話パートナーとして活動して行く中で、お互いの国や文化についても理解を深めていくことができればと思っています。

2. 「日本語」によるコミュニケーション

留学生とのコミュニケーションを考えると、媒介言語としてすぐ英語を思い浮かべる人が多いようです。確かに大学院での専門の研究についての指導は英語で行われている場合も多いようです。でも、同じ研究室の日本人学生との会話や日常生活では日本語が必要とされる場面も多いはずです。また、学部の場合はほとんどの講義は日本語で行われていますし、留学生の日本語のレベルもかなり高いので、基本的に日本語でコミュニケーションをすることになります。

また、公用語は日本語のみ、日常生活でも通常日本語しか使われていない日本という国で生活していくには、ある程度の日本語能力が必要とされます。会話パートナーに登録する留学生も、日本人学生との会話を通して早く日本語が上手になりたいと思っています。

そこで、ここでは留学生と日本語でコミュニケーションをするうえでの留意点について述べてみたいと思います。

大学院に所属する留学生の場合、日本に来てはじめて日本語を勉強する人たちがほとんどです。皆さんが初めて英語を勉強したときのことを思い出して下さい。皆さんが「アルファベット」から勉強したように、留学生も「あいうえお」から勉強を始めます。大学で新しい外国語を勉強している人がいたら、違う国のことばを勉強しはじめたばかりの留学生の状況が想像しやすいかもしれません。

以下に、いわゆる「日本語が通じない」場合の解決策を、具体例を挙げながら見ていきたいと思っています。

＜日本語が通じない場合＞

・文の形

留学生は、まず、「-----です。」「-----ます。」の形で勉強を始めます。

例えば、

「Aさん、学生？」ではなくて、

「Aさんは学生ですか。」

「Aさん、コーヒー飲む？」ではなくて、

「Aさんはコーヒーを飲みますか。」

という形で日本語の勉強を始めるのです。

もちろん、日本で生活しているのですから、「Aさん、コーヒー飲む？」のような言い方を早く理解できるようになったほうがいいのですが、相手の留学生が日本語を勉強し始めたばかりの場合は、「-----です。」「-----ます。」の形で話すのがわかりやすいと思います。

お腹が空きました。

おなか すいたあ！

はら へった！

上記のほかに、留学生が、皆さんが言った日本語がわからない場合、理由としては以下のような可能性があります。

-
- ① 話すスピードが速すぎた。
 - ② 発音に不明瞭なところがあった。
 - ③ 発音が似ているほかの単語と間違えた(聞き違えた)。
 - ④ 知らない単語があった。
 - ⑤ 勉強していない文法・文型だった。
 - ⑥ 文が長くて複雑すぎた。
 - ⑦ 短縮形を使った。
 - ⑧ 自己の常識、文化的背景から考えて、誤解した。違う状況を想像した。
-

これらは、日本語が上級レベルの留学生にも当てはまります。また、②③④と⑧に関しては、皆さんが、留学生の言った日本語の意味がわからなかった場合や誤解した場合にも当てはまるでしょう。

では、まず、留学生が、皆さんが言った日本語が理解できなかった場合のケースについて、具体的に例を挙げながら、その原因と対応策を考えてみましょう。

①と②の場合は、話すスピードを少し落として、はっきり発音するように心がければいいと思います。ただ、ゆっくり話しすぎると逆にわかりにくくなる場合があります。

これに対して、③から⑧の場合は、ゆっくり話したら、わかるというものではありません。

<例 1>

②③ おかしい / おかし

てんき(天気) / でんき(電気)

きれい / きれい

びょういん(病院) / びょういん(美容院)

おばさん / おばあさん

「おかしい / おかし」の場合は、「おかしい」という単語をまだ勉強していなかったもので、知っている単語「おかし(お菓子)」と勘違いしたという例です。

「てんき(天気) / でんき(電気)」「きれい / きれい」「びょういん(病院) / びょういん(美容院)」についても、上記と同様なことが考えられますが、**発音の問題**も含まれています。

自分の母語にない音を聞き分けたり発音したりするのは誰にとっても難しいことです。

日本人にとって、英語の「L」と「R」を聞き分けたり、発音したりするのが難しいように、留学生の母語によっては、日本語の「ラ行」(「L」でも「R」でもない)を発音するのが難しい場合があります。

また、中国語では、「濁音」と「清音」の区別がないため、当然のことながら、その聴き取りと発音が難しくなります。特に上級レベルになるとこの問題が大きくなります。漢字の語彙(2字熟語、4字熟語)が増えると同音異義語も増えますし、また濁音と清音の違いだけで全く意味の異なる言葉になったりする場合が増えるからです。

「**長音**」に関しては、ほとんどの留学生が聴き取りと発音の際に困難を感じています。留学生の家族の話をしているときは、「おばさん」の話なのか「おばあさん」の話なのか確認しなければ、わからないことが多いです。

<例 2>

京都の南禅寺の近くで食べた湯豆腐はとてもおいしかったです。

④ 南禅寺 湯豆腐

⑤ 名刺修飾:名詞「湯豆腐」 修飾部分「京都の南禅寺の近くで食べた」

⑥ →南禅寺の近くで湯豆腐を食べました。湯豆腐はとてもおいしかったです。

話の中に突然知らない**固有名詞**が出てくると、混乱することがよくあります。

④の場合、まず南禅寺が仏教のお寺で、湯豆腐が豆腐料理であること、また南禅寺の近くには有名な湯豆腐のお店がいくつもあることを**背景知識**としてもっているかどうかで、理解が全然違ってきます。

⑤の名詞修飾ですが、留学生が初級日本語のコースでこの文型を勉強するのは比較的後の方です。もちろん、それまではこうした複雑な構造の文で話してはいけないという意味ではありません。まだ学習していなくても、会話の流れで理解できるときもありますし、教室の外では、留学生は常に全くコントロールされていない日本語を聞かなければならないのですから。

ただ、留学生が理解できなかったとき、翻訳して説明しようとする前に、⑥のように、簡単な二つの文にわけて言い直してみるという方法があります。これは、二つ以上の文で一文が構成されている場合、とても有効な方法です。

<例 3>

バイトがあるから、はやく行かなきゃ。

④⑦⑧ バイト → アルバイト → 主に学生のパートタイムの仕事 (part-time job)

⑦ 行かなきゃ → 行かなければなりません

⑤ なければなりません → should

「バイト(アルバイト)」ということばは、英語ではなくドイツ語から来たものです。英語だと「part-time job」がこれに当たりますが、でも、日本のように大多数の大学生がアルバイトに忙しいという状況は、世界の中でも珍しいと思います。また、日本の場合、アルバイトの種類も多岐にわたっています。小中高生に対する「かてきよ(家庭教師)のバイト」があるという社会的背景を知らなければ、理解がさらに難しくなるかもしれません。

また、⑦の「行かなきゃ」は、日本語の初級レベルでは、学習しない場合が多いです。「行かなければなりません / 行かないといけません」の形では、勉強しているのですが。もちろん、留学生が皆さんとの会話を通して、友達との会話で使う「行かなきゃ」や「行かなくちゃ」という言い方を知るのはとても有益なことだと思います。

次に、「行かなきゃ」が「行かなければなりません」を短縮した形だということはわかったけれども、「行かなければなりません」そのものが分からないという場合があります。「バイトに行きます。」は勉強したけれど、「バイトに行かなければなりません。」は、まだ勉強していないケースです。「上記の⑤のように、「なければなりません」にあたる「should」を提示して、英語でわからない部分を補うということもできますし、「バイトに行きます。」とか「6 時からバイトがあります。」と言い直す方法もあります。

まだ留学生との日本語での会話に慣れていないとき、留学生がわからなかったら、何でもすぐ翻訳しようとして、辞書と首っ引きになったりしている姿を見かけることがあります。具体的な例を挙げて話すと、英語などの媒介言語を使わなくても、混乱しないで理解が進む場合が多くあります。

また、はじめから日本語に英語を混ぜて話すと、逆に理解が難しくなることがよくあります。

<例4>

留学生：「週末何をしましたか。」

日本人学生：「伊王島へ fishing に行きました。」

④ 伊王島 fishing

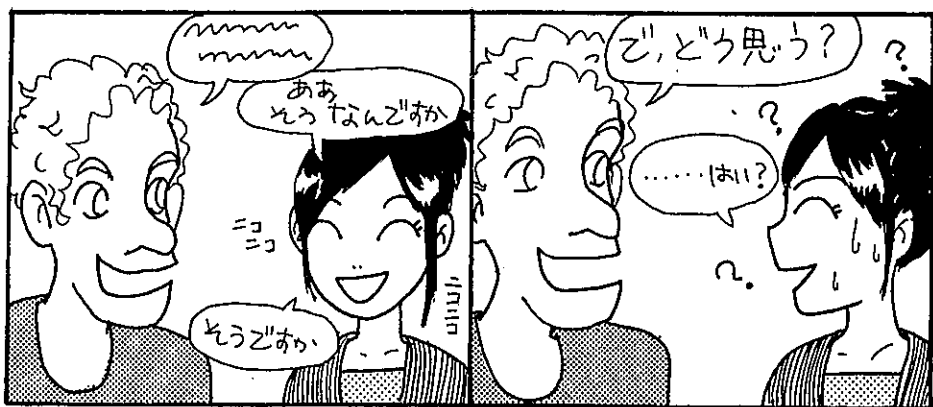
伊王島については、<例2>で述べた通りです。ここで問題になるのは英語の使い方です。日本語で話しているときに、急に英語が入ってくると、その単語を英語ではなく日本語だと思ってしまうケースが留学生にも日本人学生にも見られます。みなさんは留学生が知らない単語だろうと思って英語を使っているのはよく分かるのですが、まず、「釣りに行きました。」と言ってから、英語が必要かどうか判断したほうが良いと思います。留学生がわからなかったら、ジェスチャーと一緒に「魚をつりました。」と言いかえてみるか、「つり(ジェスチャーしながら) fishing」と言えば、よくわかるでしょう。

ここまでいくつか具体的に見てきましたが、実際にはいろいろな状況がありますから、その場その場で一番いいと思う方法を、留学生の反応を見ながら、次々に試してみるといいと思います。

3. コミュニケーションの相手としての態度

今度は、皆さんが、留学生の言ったことが分からなかった場合のことを考えてみましょう。

このとき、一番注意しなければいけないのは、適当に相づちを打ったりして、“わかったふり”をしないということです。



「相手が一生懸命話しているのに、聞き返すのは悪い」という気持ちを皆さんが持つのはよくわかります。でも、それでは本当の会話は成立しませんし、話に通じていると思っていたら、実はそうではなかったということがわかった場合、信頼関係をも損ないかねません。

また、相手の質問に対して、笑ってごまかしたり、黙ったままでいたりというのでは、会話は続きません。その「笑い」や「沈黙」の持つ意味が相手に伝わらず、誤解を生むこともあります。

では、具体的な例を見ながら、考えてみましょう。

<例1> 笑い

留学生に、「家に帰ってから、どのくらい勉強しますか。」と聞かれて、ほとんど勉強していない日本人学生は「いやあ、あははは.....。」と笑っただけで、その質問にはっきり答えませんでした。



日本人学生同士だったら、この笑いが何を意味しているのか通じるのですが、その留学生はどうして相手の日本人学生がわけのわからない笑いを続けているのか理解できませんでした。「自分は何か変なことを言ったんだろうか?」「自分の日本語が変だったんだろうか?」と留学生は不安になったようです。一方、失礼だと感じる留学生もいるかも知れません。

＜例2＞ 沈黙

留学生に「佐世保や沖縄の米軍基地をどう思いますか。」と聞かれて、それについて考えたことがなかった日本人学生は「うーん。………」と言ったまま、沈黙してしまいました。下を向いたまま沈黙が続くので、留学生は聞いてはいけないこと、つまり日本では「タブー」とされる質問をしてしまったのだろうかと思って、どう言ったらいいのか困ってしまいました。

こういう場合、ただ黙って考えていないで、「あっ、今まで考えたことがありますでした。」とか、「そうですね。難しい問題ですから、すこし考えたいです。」とか、日本人学生が何か意思表示をすれば誤解が防げるはずですし、また違う話題で話を続けることもできると思います。

＜例3＞ プライバシー

何がプライバシーに関わるのか、文化によって、ずいぶん違います。年齢や家族構成や職業、収入など、ある文化では聞いても全く問題ないことであったり、逆にとても失礼なことであったりします。

みなさんも、留学生から、親の職業や収入について聞かれることがあるかもしれません。その場合、ただ単にその人がぶしつけな人なのか、その人の所属する社会では、普通に聞いてもかまわないことなのか、2つの可能性が考えられます。

もし、相手の留学生が所属する文化圏では失礼ではないことだったとしても、あなたがそれを失礼だと感じたら、また一般的に日本では聞くのは失礼だとされることであれば、相手にそれを伝える必要があります。そして例えば親の給料について聞かれた場合、一般的な情報（例えば、40代のサラリーマンだったら1ヶ月いくらぐらい）を教えてあげればいいでしょう。

特に異なる文化的背景を持つ留学生との会話では、「笑ってごまかす」「沈黙して相手が話題を変えてくれるのを待つ」のではなく、何がわかって何がわからないのか、また、何を不快だと感じているのかを、はっきり相手に伝える努力が必要です。

4. 留学生の国についての質問

留学生にとって、自分の国について興味を持たれるのは、とてもうれしいことです。その国の文化的なこと(料理・芸術・お祭り等)や、教育制度、有名な観光地など、聞いてみるといいですね。

でも、その時、気をつけて欲しいことがあります。私たちは他の国について、本当に少しの情報しか持っていないこと、しかもその情報はかなり偏っていること、この2点について、しっかり認識していきましょう。

<例1・a>

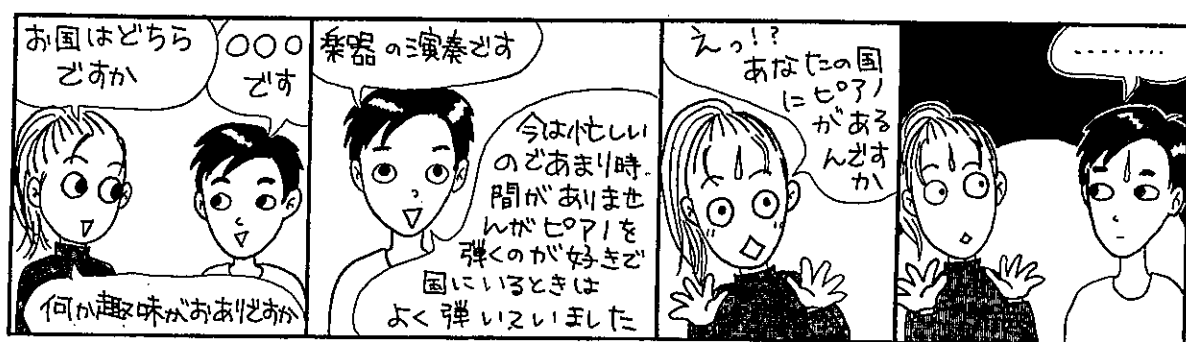


<例1・b>



その人は、自分が相手の国について知っていることがありますよ、ということ
を伝えなかったのかもしれませんが、でも、こう言われた留学生は次の言葉
が続かなくなりました。お互いによく知りあった後、何かその国をもっとよく理
解したいと思って聞くのなら、いいのかもしれません。でも、しょっぱなにこん
なことを言われたのでは、これからいいコミュニケーションができるとは考えに
くいと思います。

<例2>



私たちは偏った情報を受け続けているうちに、反射的にとんでもない失
礼なことを言ってしまうことがあります。

多くの外国では、日本は今でも地図のどこにあるのかわからないような遠
い国です。そこで、映画やテレビなどの限られた情報から、日本には忍者が
いるとか、毎日すしを食べているとかというようなイメージが持たれたりしま
す。

そんな笑ってすむようなことだったらいいのです
が。

これに対して、ある留学生がとて面白いアドバイ
スをくれました。



「あなたの国はこうでしょう？」ではなくて、「あなたの国ではどうですか。」と聞けばいいんじゃないですか。

留学生の国について、マスコミや本などから得た情報から「〇〇さんの国では……なんですか？」とか、「～は……だそうですね。」と言うのではなく、「〇〇さんの国ではどうですか？」「～はどんなところですか？」と質問してみてください。きっと話題が広がって行くと思います。



ここまで、留学生とコミュニケーションする際の留意点についていろいろ書いてきましたが、やはり、一番大切なのは、「相手の留学生のことをもっと知ろう・理解しようとする姿勢」と、「自分の話をちゃんと相手に伝えようとする誠実さ」ではないでしょうか。

心配しすぎず、失敗から学びながら、留学生との信頼関係を築いていってほしいと思います。

日常生活にまつわるエピソード集

へえ、そんなことがあるんだ。

えっ！ 知らなかったの？

うん。おもしろいねえ。

それって欧米の習慣で、アジアでは違うと思ってたよ。

でも、同じ国でも地域によって違うかもね。

そうそう、それに個人差だってあるし。

毎日の生活に関すること

* お互いに、毎日どんなことをしているのか、普段の生活について聞きあうことで、お互いのライフスタイルがわかってきます。そのとき、パートナーが国では毎日どんな生活を送っていたのか、聞いてみてもいいですね。

* 毎日の生活に関わる習慣は、自分にとってあまりにも当たり前のことで、普段はほとんど意識することがありませんよね。でも、そこが落とし穴。そういうことが原因で留学生との間で誤解が起こっても、それを誤解と気付かずに、そのままになってしまっているケースが意外とあるようです。

そこで、ここでは、キャンパスライフも含めて、日常生活の中で起こった色々なことを、**エピソード**としてお話ししてみようと思います。

わたしは現在長崎大学留学生センターの教員として、主に留学生に対する日本語教育や指導相談に携わっています。今までに50カ国以上の国からの留学生と関わってきました。

このハンドブックの中に例として挙げてあるものや**エピソード**として紹介されているものは全て、「こんなことも起こりうるかもね。」というような架空のことではなく、わたしが今まで実際に留学生から(日本人学生のみなさんからも)聞いたり、経験したりしてきたことです。

買 い 物

スーパーマーケット・市場

日本のスーパーマーケットで、ひとついくらかで売られているリンゴを見て、びっくりしたというような話をよく聞きます。国では箱単位で売り買いするのにつて。



ひとつ 200 円！？

肉類にしても、日本では塊で売っているということは少なくて、スライスしたものが、100 グラムいくらかで売られていますよね。



食生活が肉食中心の国に行って私がよく困ったのは、日本料理を作ってくれと言われた時です。私が思いつく日本料理で肉を使ったものというと、細切れにしたものか、薄くスライスしたものが必要で、でも、どこにもそんなもの売っていません。あちらのナイフを使って、牛肉の塊や、丸のままの鶏 1 羽と格闘するのは私には無理でした。

とはいえ、違う国へ行くといつも普通のスーパーや市場をのぞくのが楽しみです。パートナーと一緒に、近くの市場に行ってみるのもおもしろいと思いますよ。

物 価

色々な国から来た留学生が、一様に口を揃えて言うのは、「食べ物の値段が高い！」ということです。来日直後は、円を自国の通貨に換算し直して考えているので、よけいびっくりするようです。でも、「卵と鳥肉はとても安いです！」と言われる場合もあります。



一方、食べ物ではなく、自動車や電気製品などは、国によっては、日本で買うほうがずっと安いということもあるようです。小さい家だったら

車より安い！と聞いて、これにはびっくりしたことがあります。逆に留学生に日本の家やマンション購入の金額を教えると、「先生、それはゼロの数間違っていないですか？」と言われることがよくあります。



バーゲンの時期

服も高い！とよく言われます。で、いつも話すのがバーゲンの時期。冬物のバーゲンはまだ一番寒い時期に始まるし、夏のバーゲンもまだとっても暑い時に始まるから、買うのはしばし待ちなさいといったぐあいです。春夏秋冬と四季のある日本では、服の入れ替わりが速いし、事前にバーゲンの時期を知っておくのは大切です。ところで、年間を通して暖かい国は、どうなのでしょうね。

値引きは可？

よく留学生に、「もっと、安くしてください。」というのは日本語で何と言いますか？」と聞かれるのですが、日本では、フリーマーケットなどは別にして、通常お店では値段はいつも表示されているし(すし屋の時価というのがありますが)、そこからの値引きはほとんどありませんよね。ところが、値段の表示がないのが普通だったり、あってもその値段のまま買うことはまずなくて、必ず値引き交渉の後に購入するという国は世界を見渡してみると結構あるのです。(例えば、近いところ言うとタイ、インドネシア、マレーシアなど。)それも交渉次第で10%や20%という値引き率ではなく、もっともっと安くなったりするので、日本で、ただでさえ高い品物を前に、留学生が値引き交渉をしたくなる気持ちもわかりますよね。



それで、来たばかりの留学生には、日本では、食べ物に関しては新鮮さ（新しいこと）が大切だから、スーパーでも市場でも夕方閉まる前に行くと色々なものが半額割引になったりすることや、電気製品も新型は高いけど、ちょっと前のモデルは安いというような情報を教えることにしています。あっ、それに 100 円ショップも。

自動販売機

日本はどこに行っても自動販売機がありますよね。また、種類もいろいろです。以前、マレーシアの留学生が、どんな自動販売機があるか、どんなものをよく自動販売機で買うか、一日に何回利用するか、というようなことを日本人学生を対象に調査したことがあります。また、お酒やビールの自動販売機を見て、びっくりしてしまった留学生もいました。



料 理

* 最近、日本のスーパーでは、冷凍食品やインスタント食品がたくさん売られています。電子レンジで温めるだけで、すぐそのまま食べられるものがたくさんありますね。また、ほか弁やコンビニでも、お弁当や一人分のサラダなどが売られています。スーパーにはお総菜コーナーがあって、量り売りをしてくれるところもありますね。

日本では最近包丁を握ったことのない子供が増えているそうです。パートナーの国ではどうでしょう？

料理ができますか？

一人暮らしをして、はじめて必要に迫られてするようになったことが皆さんにもあるでしょう。留学生も国では家族と暮らしていて、一人暮らしは初めての体験という人がたくさんいます。あるバングラデシュの学生は、国では台所に入ったことがありませんでした。今では自分で料理できるようになりましたが、国のお母さんやお姉さんにその話をしても、まったく信じてもらえないそうです！

日本ではほか弁もコンビニもあるのに、どうして料理する必要があるの？と考える人もいるかもしれませんね。でも、特に来日したばかりの頃は、日本の食べ物が口に合わなくて食べられないという留学生が結構います。また、宗教的な理由で食べるものが限られている場合、どの食べ物に何が入っているのかわからなくて困ることもよくあります。（イスラム教では豚を、ヒンズー教では牛を食べてはいけないことになっています。）

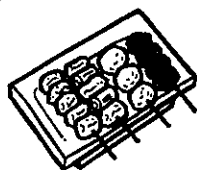
それに、疲れているときや病気になったときなど、自分の国の食べ物が恋しくなりますよね。じゃあ、レストランで、といっても、長崎にはあまり色々

な国のレストランがないし、あっても、ちょっと高いですよ。それで、結局のところ、自分で作る以外ないということになります。

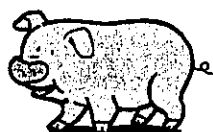
その学生は、日本に来たばかりの頃、毎日、コンビニのサンドイッチか、ファーストフードのフィッシュバーガーばかりを食べていました。いいかげん嫌になりますよね。お母さんが作ってくれていたバングラデシュのカレーが本当に食べたくなって、(もちろん、日本のカレーとは全然違います。)何回も作ってみたのですが、うまくいかず、イライラしたり、悲しい思いをしていたところ、急にピンとひらめいて、炊飯器を使って肉を煮込み、カレーを作る方法を思いついたそうです。けっこうおいしいものができて、失敗もないし、本当にうれしかったと言っていました。

そうそう、どこの国の学生も、日本の炊飯器はけっこうお気に入りのようです。

さて、下の絵、日本人だったら、すぐに「焼き鳥」とわかるのですが、これが留学生だと.....



留学生 A: う〜〜ん、これは、鶏肉？豚肉？それとも牛肉？



留学生 B: えっ、何言ってんの。これって、フィッシュボール(魚のすり身)でしょう？

えっ！ そんなもの食べるの！

日本料理といえば、すぐ「さしみ」「すし」「天ぷら」といわれますよね。「天ぷら」が好きだという留学生は多いですし、「天ぷら」が食べられないという話はまだ聞いたことがないのですが、「さしみ」「すし」となると、意見が分かります。とても食べられないと思う人は、まず、「うえっ、生の魚を食べるなんて。」、で、次に、タイやヒラメの舞踊りではありませんが、魚の活作り(まだ目やしっぽが動いてるやつです。)を見て、「うわっ、残酷！」となるのです。

留学生と学食で食事をしていたときのこと。学生の箸が止まっているので、「どうしたんですか？」と聞いたら、キュウリとシラスの酢の物を前に、「先生、魚の目がたくさん私を睨んでいます。」。そう言われてみれば、うーん、確かに。



「えっ、ウサギを食べるの?」「えっ、犬を食べるなんて信じられない!」と言っているあなた。日本でも熊本の馬刺し(馬肉の刺し身)は有名ですよ。

食 事

家族そろって、ご飯を食べますか？

ある留学生が、いつも午後からのクラスに遅れてくるので、どうしてだろうと思っていたら、お昼ご飯を家族と一緒に食べるために家に戻っていたのです。その国ではお昼ご飯を家族と一緒に食べるのは当たり前のことで、家族とゆっくり昼食をとる時間はその学生にとってとても大切なことだったのです。ちなみにその国のお昼休みは2時間ぐらいだそうです。

また、お昼は家に帰って家族と一緒に食事をしなくても、晩ご飯は必ず家族揃って食事をするという留学生はたくさんいます。理系の大学院生の場合、もちろん研究室での実験は深夜に及ぶことは日常茶飯事なので、切りのいいところでいったん家に帰って家族と食事をし、また研究室に戻って実験を続けるのです。



週末も、夏休みもなく、年末さえも研究室にいる大学教員を見て、家族との生活はどうなっているんだろうと思う留学生も少なくないようです。

なんで食べますか？ 手？ 箸？ フォーク？ スプーン？

例えば、日本では、おにぎりを食べるときは、普通手で食べますね。それから、寿司は手で食べても、箸で食べてもかまいません。サンドイッチもハンバーガーもフライドチキンも、普通手で食べますね。



じゃあ、カレーやオムライスやチャーハンは？ 手？ 箸？ フォーク？
スプーン？



日本だとだいたい和食のご飯物は箸で、洋食のご飯物はスプーンで
食べることが多いですね。でも、ところによっては、ご飯物をスプーンで
食べるのは子供だけ、大人はフォークという文化もあります。また、基本的
に食べ物は手で食べるという文化もあります。私はカレーを手で食べるの
に何回か挑戦したのですが、留学生が初めて箸を使って食べる時と同じ
ように、上手に食べることができませんでした。インドの学生も、インドネ
シアの学生も、バングラデシュの学生も、みんな上手にきれいに食べてい
るのに……。自分だけ子供になったような気がしました。



音を立てて“食べなくても” いいですか？

初めて日本のレストランや食堂に入って、まず驚くのが周りで食べている人たちが出す「音」だそうです。特に、めん類を食べているときの音は、多くの国の留学生にとって、すさまじいものがあるようです。しかも、若い女性まで。大和撫子？のイメージが崩れたのでしょうか。



日本ではめん類は音を立てて食べるのが普通で、特に「そば」は音を立てないで食べているのを見たら、まずいんじゃないかと思われるかもね、というようなことを話したら、しばらく後で、ある留学生が、「先生、そばを音を立てて食べるのはとても難しいです。もっと、練習しないと。」と言いました！？（ちなみに、この「もっと、練習しないと。」というのは、日本語の教科書の中に出てくる表現です。）



食べ物失敗談

*では、ちょっとここで息抜きに留学生の食べ物失敗談を。

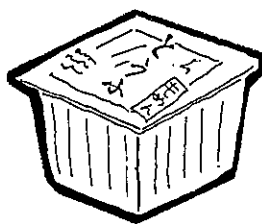
失敗談①



これはレバノンの学生から聞いた話です。さて、彼がチーズと思って買ったものは何だったのでしょうか？

これと同じような話をトルコの学生からも聞きました。

<答え> それは、

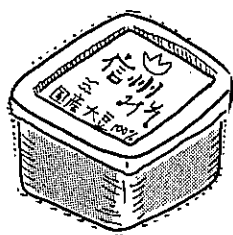


です。

失敗談②



さあ、学生がピーナツバターと思って買ったものは何だったのでしょうか？
ちなみにその時その学生はひどい鼻風邪をひいていました。



<答え> それは、 です。

* かくいう私も、長崎に来たばかりの頃、スーパーの豆腐が置いてあるコーナーで、チョコレートムースのようなものを見つけました。そうです。それは「ごまどうふ」です。でも、とても甘くて、関西のゴマ豆腐 と比べると、長崎のゴマ豆腐はやっぱりチョコレートムースの方に近いかも、というのが私の感想です。

生活様式

- * 日本の現代の生活様式には「和」と「洋」が混在しています。家の中を「和」と「洋」を頭において、見直してみてください。また、「洋」と言うとき、具体的にはどの辺の国を念頭に置いているでしょうか。

例えば、

<家の中>

和室 / 洋室

ふとん / ベッド

テーブルとイス / こたつ・ちゃぶだい・低いテーブルと座布団(座イス)

カーテン / 障子

和式トイレ / 洋式トイレ

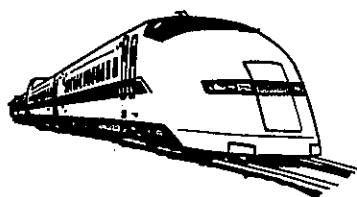
床の上に座って食事

パキスタンから来た学生が、日本の和室に置いてある低い長方形の彫りの施してあるテーブルを見て、「あっ、私の国のと同じです!」。今期もサウジアラビアの学生が、日本語のクラスでビデオを見ているときにそのテーブルを見て、「先生! 私の国と同じ!」と、とても嬉しそうに叫びました。でも、サウジアラビアに畳の部屋はありませんから、カーペットの上にそのテーブルを置いて、食事は床に座ってするそうです。留学生の話を聞いていると、床(カーペット)に座って食事をするのが一般的な国がたくさんあるんですね。

そうそう。あの有名なキリストの「最後の晩餐」の絵は、キリストと12使徒がイスに座ってテーブルを囲んでいます。本当は床(カーペット)に座って食事をしていたはずなんです。

時間感覚

- * 成田空港に着いて、東京駅から新幹線に乗った学生が、東京発 13:03、名古屋着 14:56 のひかりが、実際に東京駅を 13:03 に出発し、名古屋駅に 14:56 に到着して、本当にびっくりしたと言っていました。新幹線は数分でも遅れる場合、必ずアナウンスがありますよね。



来日した留学生には必ず、日本では時間に正確であることはとても大切なことだと言うのですが、その正確さがどの程度要求されるものであるのかは、実際に経験してみないとわからない場合が多いようです。

約束の時間

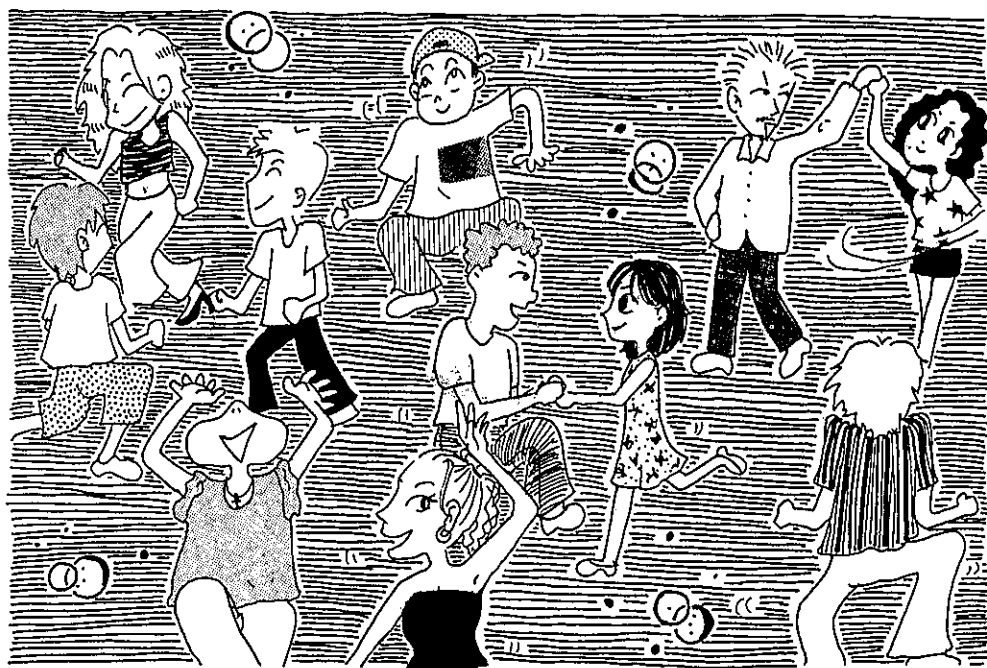
会話パートナーと会う場所と時間（例えば、留学生センターのロビーで 1:00 に）を決めて、約束の時間に約束の場所に行ったけれど、その約束の時間に留学生が現れないという話をよく聞きます。日本人の場合、一般的に約束の時間よりも少し早く行って待っているというケースが多いと思うのですが、約束の時間よりも 10 分、20 分遅れていくのは当たり前で、まずそれを遅れているとは思えないという文化もあります。

例えば、「すぐ」とか「もうすぐ」という表現が表す時間がどれくらいを指すのかも、個人差もありますが、その人が属する文化によってかなり違う場合があるかもしれません。

パーティー

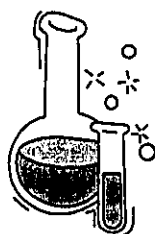
「パーティーは18:00に始まります。」これを聞いたある留学生は、まずもって 18:00 から始まるパーティーなんて聞いたことがないというようなことを言いました。「何でそんな早い時間に始まるの？」というのです。それで、「20:00 に終わります。」という、「それは本当にパーティーですか？」と聞かれました。その国では、通常パーティーはどんなに早くても 19:00 ぐらいから。その場合、みんなが集まってくるのは 20:00 ぐらいからで、特に週末のパーティーは夜通しやっているの、何時にやって来てもいいし、何時に帰ってもいいというのです。

来日したばかりの留学生をパーティーに誘うときには、それがどんなパーティーなのかと、始まる時間だけでなく、終わる時間も言っておいたほうがいいかもしれません。



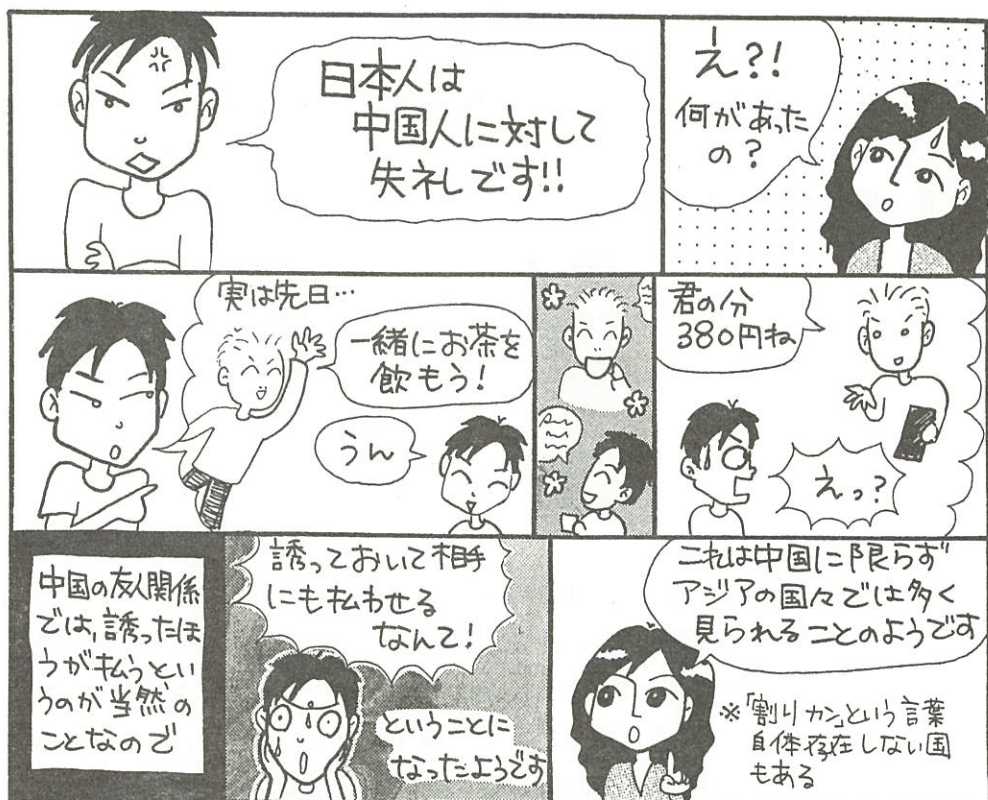
急がなくていいよ。

実験のレポートについて、研究室の指導教官の先生から、「急がなくていいよ。」と言われた留学生は、その言葉通り、国にいたときのペースでゆっくりやっていたら、その先生から呼ばれて、「まだ、できていないのか!」と怒られたそうです。それからは、「急がなくていい」と言われても、できるだけ早く仕上げるようになったと言っていました。「急がなくていい」という場合、どの程度、急がなくてもいいのか、難しい問題のようですね。



友人関係

割り勘・おごり



といっても、中国の最近の若い世代では、「割り勘」の場合もあるという話も聞きましたから、生活習慣はやはり時代とともに変化していく部分があるんですね。



また、ある女子留学生が、「先生、日本人の男の人はケチですね。」というので、どうしてかと思ったら、日本では男性とお茶を飲んだり、食事をしたりした際に、“女性もお金を払わなければならない”ということを知ってショックだったと言っていました。これは恋人同士ではなく、単なる友人関係でも、男性がお金を払うというのは当たり前のことで、男性もまちがっても女性にお金を払わせるようなことはしないそうです。

その理由は色々なのでしょうが、メキシコからの男子留学生の弁によると、「女の人を男の人にとって、たいへん（彼はこのことばをたいへん強調して言いました。）大切です。ですから、男の人は女の人のためにいつも花を買ったり歌を歌ったり色々なことをします。」ということだそうです。



そういえば、私も留学生と食事をしたときに、私がただ単に女性だということ、何があっても自分が払うと主張されて、ここは日本だから割り勘にしましょうと、割り勘にするまでに多大のエネルギーを要したことが何度もあります。そして、そう主張した学生の顔を思い浮かべると、主張の強さは色々ですが、男性の方がお金を払うというのは結構世界の色々な地域であることのようにです。

誕生日

インドネシアの留学生が日本人の友達から誕生日のパーティーに招待されました。彼はプレゼントも、余分なお金も持っていきませんでした。というのは、彼の国では必ず誕生日を迎える人が招待した人をもてなすのです。招待された人は、パーティーの場所がレストランであっても、何も支払う必要がありません。彼が行ったパーティーは会費制のパーティーだったようです。本当にびっくりしたとっていました。



お金の貸し借り

「この間貸した 100 円、返して。」「えっ!!」

日本では友だちにお金を借りたら、もちろん人によっても違いますが、たとえ 100 円でも返す場合が多いですね。でも、そんな小さな金額を友人関係で貸した借りたというなんて、という文化もあります。皆さんのパートナーはどうでしょう。

ありがとう、ごめんね。

「親しき中にも礼儀 有り？ 無し？」

日本語のことわざに、「親しき中にも礼儀あり」というのがありますよね。ことわざは中国から来たものも多いので、中国でも「親しき中にも礼儀あり」と思っている人が多いかも知れません。また、韓国もたいへん礼節を重んじる国ですから、もちろん「親しき中にも礼儀あり」だと思っているのではないのでしょうか。ところが、こと、家族や友人の間では、何かをしてもらったからといって、お礼を言うことはないそうです。「家族なのに、友だちなのに、何かしてあげるのは当たり前でしょう？ そんなことでお礼を言うなんて。」ということのようです。

それに、日本ではちょっとしたことにでも、「ごめんね。」や「すみません。」と言いますよね。例えば、「これ、やっといてくれる？ごめんね。サンキュー！」とか。ある韓国からの学生が、「すみません」と言った数は、韓国で育った年数より、日本に来てからの 1 年間の方が多いと言っていました。「日本人は気を使いすぎるんじゃないですか。」ということですが、さて、あなたは どう 思いますか？

訪 問

友だちの家を訪問するとき、電話をしてから行きますか。しないで行きますか。あなたにとって、突然訪問しても構わない関係というのはどのぐらい近い間柄でしょう？

ある留学生に友だちの家を訪ねるときに電話したことがないと言われたことがあります。でも、「その友だちが都合が悪かったり、いなかったらどうするの？」と聞いたら、「また違う日に出直す。」という、いたってシンプルな答えが返ってきました。その留学生にしたら、なんでそんな当たり前のことを聞くのだろうという感じでした。

招 待

留学生の家(アパート・会館)に招待されたことがある人は多いのではないのでしょうか。よくその国の料理を作ってもてなしてくれますよね。でもその反対に、留学生を自分の家(自宅・アパート・寮)に招待したことがある人は、案外少ないのではないのでしょうか。よく招待されて、留学生の部屋に何度も言ったことがある人でも、自分の部屋に留学生を招待したことのない人はたくさんいるようです。どうしてでしょう？



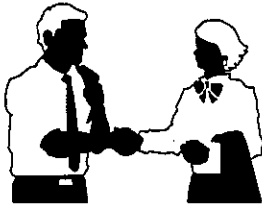
日本の家は小さいからとか、アパートは狭いからとか、掃除してないしというような理由を聞くことがありますが、留学生にとっては部屋が狭くても関係ありませんし、少々部屋が乱雑でも気安く呼んでくれて楽しい会話ができればそれで充分。一緒に料理を作ってもいいですし。6畳一間に5人ぐらい友だちを呼んでも大丈夫。大きなテーブルがなくても、畳の上に布を広げて、その上にお皿を並べれば OK。学生同士、気軽に行き来できるといいですね。あなたが女性で一人暮らしをしていて、留学生が男性の場合、「ちょっとね・・・。」と思ったら、他の友だちも一緒に招待しましょう。(呼ばなくても留学生が勝手に自分の友だちを連れてくる場合もあります。)

家族と一緒に住んでいる人だったら、家族の夕食に留学生を呼んで、鍋でも囲めるといいですね。留学生がイスラム教だったら海鮮鍋か湯豆腐で行きましょう！何年日本に住んでいても、日本人の普通の生活を知らない留学生はたくさんいます。部屋の狭さなんか関係ないない。学生同士、気楽に、ね！

愛情表現

* 私たちは日常、家族や恋人、友だちに対する愛情（好きだという気持ちや親近感など）をどうやって表しているのでしょうか。直接ことばで表しますか。それとも、表情で？ それとも、何かしてあげることで？ 身体的な接触はよくありますか。（例えば、抱きあう、キスをする、手を握る、肩を抱く、肩をたたく等）

そういえば、日本の挨拶の仕方にしても、伝統的な踊りにしても、それが、男女間でも、同性同士でも、身体に触れる動作というのを思いつきませんね。



男女間

男女間に誤解はつきものですし、その誤解の原因が文化の違いだとは言えないことが多いですが、文化によって、愛情表現の仕方等、やはり違う部分もたくさんあるようです。日本人の学生はボーイフレンド・ガールフレンドの関係だと思ってつきあっていたのに、相手の留学生はぜんぜんそのつもりではなかったという話もありますし、もちろんその逆もあります。また、日本では、特定の男女が二人で歩いていたり食事をしていると、友だち同士と見られる確率より、恋人同士と見られる確率の方がかなり高いのではないかと思います。仲のいい異性の友だちがいる留学生はけっこういるようです。



ある留学生が、「日本人の女の人はとても丁寧で、会っても自分のことを好きかどうかわかりません。好きなとき、日本の女の人とはどんなサインを出しますか？」と言うので、「まあ！あなたには国にフィアンセがいるでしょう。」とからかったら、「先生、そうではありません。友だちとして好きかどうかです。」とまじめな顔で言われてしまいました。会話パートナープログラムに参加している日本人学生の95%以上が女性ですし、こういう質問が出てくるのも当然かもしれません。「じゃ、国ではどうやって相手の女の人が自分を好きかどうか判断するの？」と聞いたら、「目の表情とか、腕に触ったりとか・・・。」と言いました。

この「触る」つまり、身体的接触の頻度の違いから、特に日本人の女子学生は相手の態度にどう対応したらいいのか困る場合があるようです。日本は同じアジアの中国や韓国と比べても身体的接触が少ない文化を持つ国だと思うのですが、そのせいか、ちょっと肩を叩かれたり、腕に触れられたりしただけでも、「えっ！何？」と身を引いてしまう人もいます。逆に肩を抱かれたり、手を握られたりするのがいやだと思っても、これは文化の違いなのだから、嫌だといったら相手に対して悪いと考えて、何も言わない人もいます。でも、それこそ誤解のもと。どちらにしても、

それが自分にとって不快なことだったら、ちゃんと“ことば”で相手に伝えたほうがいいですね。「人によって違うだろうけど、友達同士だったら日本では普通こんなことはしないよ。」とか。



夫婦間

日本人宅にホームステイをしていた留学生の話です。ある日、その学生がホストファミリーのお母さんにどうして離婚しないのかと聞いたと言うのでびっくりして理由を聞いたところ、次のような答えが返ってきました。お母さんは自分にお父さんに対する不満をよく話すし、それに、その家のお父さんがお母さんに愛していると言うのを聞いたことがない。また、お母さんとお父さんがハグ(抱きあう)をしているところも、キスしているところも見ることがないと言うのです。愛情がないのに、どうして離婚しないで一緒にいるんだろうというのがその学生の疑問でした。

親子間

フランスの留学生の話です。彼女もホームステイをしていました。その彼女をたずねて、国からお母さんが来ることになりました。彼女のお母さんがちょうどホストファミリーの家に滞在しているときに、アメリカに半年ほど留学していたその家の娘さんが帰ってきました。でも、そのホストファミリーの家族は空港での久しぶりの再会のときも、家に帰ってからも、抱き合って喜ぶでもなく、お父さんは風呂に入りなさいと言ったきり新聞を読んでいるし、なんて愛情の薄い冷たい家族だろうと思ったそうです。

彼女が国に帰ってから、私は彼女を訪ねていったことがあるのですが、そのとき、見せてもらった写真の中に、彼女が帰国したときの空港での写真がありました。家族みんなが迎えに来ていて、お父さんもお母さんもお姉さんもお兄さんもみんな涙を流して喜び、彼女と抱きあったり、キスしたりしている姿がそこにありました。(その写真はお姉さんの御主人がとったそうです。)

喜びやうれしさをどう表すのか、そこに他人の目があるときとないときでは異なるのか、同じなのか。もちろん個人差も大きいですが、文化による違いもかなり現れる部分かもしれません。

ほめる時、ほめられる時

* みなさんは人をよくほめるほうですか。先生や友だちに、あなた自身や家族について何かでほめられたとき、どう感じますか。そして、どう答えますか。

みなさん、日本語がお上手ですねえ。うちのはぜんぜんだめで...

日本人男性と結婚したフィリピンからの留学生が日本語のクラスメートを自宅に招待したときのことです。御主人は集まった彼女のクラスメートに、「いやあ、みなさん、日本語が本当にお上手ですねえ。うちのはぜんぜんだめで...。」と言いました。それを聞いた彼女は本当にショックを受けてしまいました。はやく御主人や彼の親戚の人たちと日本語で話せるように必死で勉強していたからです。(もちろん、彼女の日本語が他のクラスメートに比べて劣っているということはありませんでした。)

彼女だけでなく、そう言われたクラスメートも、御主人は何でこんなひどいことを言うんだろうと、同様にショックを受けて帰ってきました。

人前で身内をほめる習慣を持つ文化と、逆に低めることが相手に対する礼儀だと心得ている文化との間では、このような誤解がたびたび生じているのでしょうね。



日本人: 日本語が上手ですね。

留学生: いいえ、まだまだです。



日本語を勉強し始めたばかりの留学生が、「おはようございます。」とひとこと言っただけで、「まあ、日本語上手ですねえ。」と言われて、どう答えていいものか困ってしまいました。

学生によっては、まだぜんぜん日本語ができないのに、「馬鹿にされた。」と感じる場合もあるようです。日本語の教科書の中にも、「日本語が上手になりましたねえ。」「いいえ、まだまだです。もっと勉強しないと。」という会話例があるのですが、初級コース後半、本当に頑張って勉強してめきめき上手になっている学生達には、「いいえ、まだまだです。」と一緒に、「ありがとうございます。毎日頑張って勉強しています。」という表現を教えて、どちらを使うかは選ばせるようにしています。(もちろん、「いいえ、まだまだです。」の意味と使い方は教えますが。)

女の人をほめてはいけませんか？



ある日、留学生(男性)から、「先生、日本では女の人をほめてはいけませんか?」と聞かれました。どうしたのかと思ったら、週末日本人の友だちに誘われてテニスをしに行ったときのこと、そこで会った女性に「あなたはきれいです。」と言ったのだそうです。すると、その女性はとてもびっくりして、「いいえ、いいえ!」と手を横にふりながら何度も強く否定したということです。習い始めたばかりの日本語で、まあ、それは不自然に聞こえたことは確かでしょうが、その学生にしてみれば、彼の人生で女性をほめてここまで否定された経験はなかったので、かなりショックだったようです。「私は失礼なことをしたでしょうか?」と、とても心配していました。さて、あなただったら、何と答えますか?

また、こんなケースもあります。留学生(女性)が研究室の先生に自宅に招待されたときのこと。先生に「きれいな奥さんですね。」と言ったら、先生は「いやあ。」と言っただけでした。今度は奥さんと話しているときに、「今日の料理はみんなおいしかったです。料理がお上手ですね。」と言ったら、「いえ、いえ。」と言われてしまいました。

ところで、今まで色々な国の留学生に奥さんの写真を見せてもらいましたが、「きれいな奥さんですねえ。」と言った時に、留学生から否定された経験がありません。ちょっと照れくさそうにする人もいますが、みんなとっても嬉しそうに「そうですか!」と満面の笑みで答えるのです。なんだか、こちらまで幸せな気分になってしまいます。あつ、ただし、男性が相手の奥さんをほめるのはタブーとされている文化もあるようですよ。



みなさんも留学生の家族の写真を見せてもらったことがあると思います。その時はどうでしたか?

誘い・断り・約束？

断り

留学生の部屋に招待されたり、食事や遊びに誘われたとき、どうしていますか。断るとき、相手にはっきり伝わっているでしょうか。ある留学生が自分の体験から、日本では誘いをはっきり断っては失礼なのだと思っていました。そこで、日本人の知りあいから誘いを受けたときに、自分では日本人流に断ったつもりだったのですが、でも、相手には全く伝わってなくて、誘ったほうの日本人は食事の用意をして待っていたという話があります。もちろん、その逆もあります！

誘い

こんなケースもあります。ある留学生がパーティーで会った日本人に、「今度ぜひ家に遊びに来てくださいね。」と言われ、電話番号も交換したので電話を待っていたけれど、全然かかって来ませんでした。また、ある留学生は日本人学生が「今度遊びに行こうね。また電話する。」と言ったので待っていたのに、いつまでたっても電話が来ないから自分から電話をかけたら相手にびっくりされてしまいました。

- * これらの表現はたんなる挨拶のようなものなのでしょうか。日本人である私でも、「今度ぜひ遊びに来てください。」と言われた場合、挨拶なのか、本当に来てもらいたいと思っているのか、判断に困る場合がよくあります。

そこで、ちょっと例を挙げてみました。これらは留学生からよく聞く話です。みなさんも、留学生との会話だけでなく、普段の日本人の友だちとの会話も思い浮かべながら読んでみてください。

<例1>



<例2>



<例3>



どうでしょう。こんな経験、今までにありませんでしたか？

宗 教

* 宗教や政治の話は避けたほうがいいという人もいます。それは一理あると思います。その話題を避けたがる人もいます。でも、個人的な意見の対立を見るような形ではなくて、客観的に、また一般的に自分の国ではこうだと話すことができるのではないのでしょうか。

日常生活のすべてに深く宗教が関わっている国もあります。また、国の宗教が定められているところもあります。偏見や思い込みを交えずに、パートナーをより良く理解するために、パートナーの国の宗教について、聞いてみる機会があればいいなと思います。(パートナーが快く話してくれたらですが。)

また、改めて考えてみると、日本の生活の中にも、神道や仏教に関係のある行事や儀式がたくさんあることに気がつくと思います。日本人の宗教心について、振り返ってみるいいチャンスかもしれません。

主人はクリスチャン(キリスト教徒)ですから。

中級の日本語クラスで、家庭内での役割分担についてそれぞれの国(7カ国)の学生に話してもらっていたときのことです。ある国の学生が、「夫は妻に給料を渡しません。それに、掃除や子供の世話もしません。」と言いました。それを聞いた別の国の学生が、「イスラム教の国では、男の人は家の仕事をしないでしょう？ 私の主人はクリスチャンですから、何でも手伝います。」と言いました。

イスラム圏では男性が優位に立っていて、女性は下位に置かれ、いろいろな自由を制限されている、これに対して、キリスト教国ではイスラム圏に比べて男女平等で男性もよく家事を手伝う、という印象を持っている人が多いようです。もちろん、そのような一般化は間違いです。幸いなことに、そのクラスには違う地域から来たイスラム教国の学生が何人か、またキリスト教国の学生もいて、その場でその誤解を解くことができました。

ところで、以前、ある中東の国から来た学生から、「先生、日本の男の人は、家では王様のようなですね。」と言いました。つまり、その学生の観察によると、日本では、夫は妻に命令し、何もかも任せて家のことは何もしないということのようです。“何もしない”というのも、どこと比較するのかによってずいぶん変わってきますよね。

みなさんの家ではどうですか？

* 私たちは、少しの、しかも偏った情報から、ある宗教について一定のイメージを形作っているようです。2001年9月11日に起こったニューヨークのワールドトレードセンターのテロの後、長崎でも「イスラム教信者の学生に話を聞こう」という集まりがありました。世界の色々な地域のイスラム教の学生が自分たちの国のイスラム教について話をしました。それを聞いていた日本人が、「へえ、イスラム教と言っても、色々なんですね。」と言いました。

世界3大宗教と言われるイスラム教・キリスト教・仏教は、世界の色々な地域に広まっていますし、また、それぞれの宗派もかなりの数に上ります。長崎は日本の中でもキリスト教の教会がとて多い町ですし、また信徒数も市としては日本一ではないかと思いますが、みなさんはカトリックとプロテスタントの違いがわかりますか？

また日本人に、よりなじみが深い仏教ですが、タイやミャンマーなどの仏教国から来た留学生は、日本のお寺のお坊さんが結婚できること、また結婚している人が多いこと、その上、お酒を飲んでも肉を食べてもいいことを知って、本当にびっくりします。彼らの国では考えられないことだからです。ミャンマーの学生のアパートに行ったとき、部屋の棚の上には小さい仏像が置いてあり、ちゃんとお水が備えてありました。ここで毎日お祈りすると言っていました。

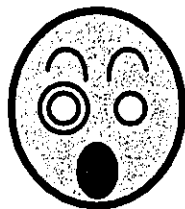
日本語にまつわるエピソード

* では、最後に留学生が勉強している日本語に関するエピソードを4つほど紹介したいと思います。

では、まず、日本語のクラスでのエピソードを2つ。

<エピソード1>

学生:「先生、顔が悪いですね。」



わかりますか？これは、「先生、顔色が悪いですね。」と言いたかったんですね。

<エピソード2>

学生:「先生、今日は頭がいい天気ですね。」



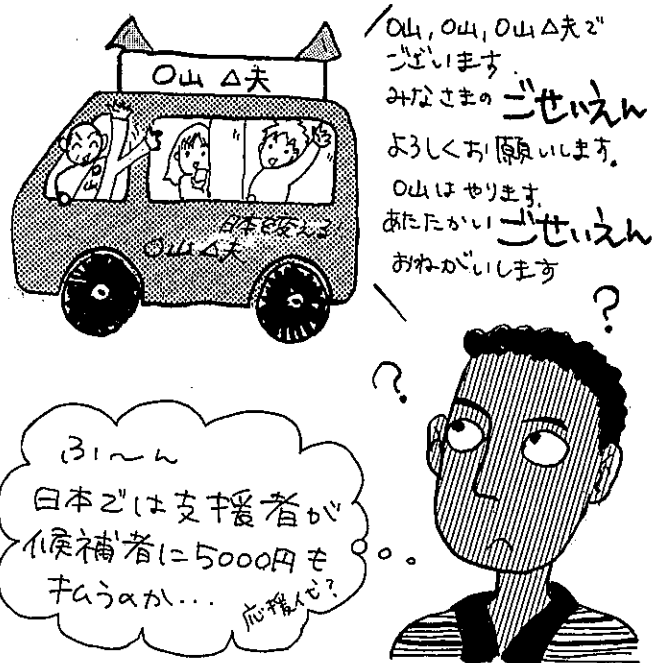
これは、「先生はノウテンキですね。」と言いたかったのではなく、「今日は冴えてますね。」と言いたかったんですね。

次は、日常生活の中でのエピソードを2つ。

<エピソード3>

「5千円、お願いします！」

日本では選挙の時、選挙カーのスピーカーの音がうるさいですよね。それを聞いていた留学生は、「日本では、候補者の応援のために5千円払うのかなあ。」と思ったそうです。わかりましたか? 「ご声援」が「5千円」に聞こえたんですね。さあ、発音してみましょう。似てるでしょう?



＜エピソード4＞

「どんな漢字？」

ブラジルの留学生が日本人の友だちの家に遊びに行った時のことです。急にお腹が痛くなってどうしようもなくなりました。「痛い、痛い。」と言うのが精一杯。日本人の友だちは彼女があまりに痛がるので、一緒に病院へ行きました。でも、病院の先生はポルトガル語がわからないので、どういふふうに痛いのかとその日本人の友だちの方に尋ねました。でも、その友だちも彼女とはいつも日本語で話していたし、ポルトガル語もわからないので、こう尋ねました。「どんなかんじ？」

留学生はその時、「えっ！何聞いているの！こんなにお腹が痛いのに、どんな漢字って言われても、わかるわけじゃない!! やめてよ、もう漢字なんて！」と心の中で“ポルトガル語”で叫びながら、「わからない。どんな漢字で書くか。」と言いました。

わかりますね。どんな「漢字」ではなくて、どんな「感じ」だったんです。その時、その留学生は「ひらがな」と「カタカナ」をやっと覚えたと思ったら、次は「漢字」で、ちょうど漢字の勉強に苦戦していたんですね。

日本語は文法は難しくないんですが、文字が大変ですね、やっぱり。

座 談 会

・ 会話パートナーを経験して ・ 経験者は語る！

「留学生と日本人学生の会話合同クラス」と「会話パートナープログラム」の両方に参加してくれている長崎大学の学生 3 人に、座談会形式で自由に話してもらいました。

参加者： 柳井知子さん(長崎大学教育学部 修士 2 年)
平木美千代さん(長崎大学教育学部 修士 2 年)
小池真路子さん(長崎大学経済学部 4 年)

きっと皆さんも同じような体験をしたことがあると思います。

「そうそう、わたしもそう思った！」
「うんうん、よくわかる。その気持ち！」

と頷きながら読んでください。

座談会(2000年10月)・会話パートナーを経験して・

経験者は語る！



柳井知子さん



平木美千代さん



小池真路子さん

＊ 今回は「留学生と日本人学生の会話合同クラス」と「会話パートナープログラム」の両方に参加してくれている3人に、座談会形式で自由に話してもらいました。

.....

いつ始めたの？

平木： 柳井さんは、学部どこでしたっけ？

柳井： 教育です。

平木： あの、もう授業の経験長いんですか？あの、会話合同クラス！

柳井： 私はね、私は2年前。今、大学院の2年で、大学4年の秋から始めたから、2年目かな？

平木： えっと、まみこちゃんは？まずは、学部はどこでしたっけ？

小池： 経済です。今、経済の4年生ですけど、会話のパートナーを始めたのが、ちょうど2年生の春。

柳井： わあ、もう、すごい長い！！

平木： 3年目？

小池： そうですね。3年目ですね。でも、会話合同クラスは4年生の前期からなんです。

柳井： そう。美千代ちゃんは？

平木： 私は、えっと・・・いつだっけ。4年だ！4年の春だ！！そうさそうさ、授業に余裕が出てきたから確か。

柳井： そうそう、私も授業に余裕が出たから4年生で。

平木： まだ、1年ちょい・・・ですかね。

柳井： ああ、そうだね。でも、1年も経ったら、もう、結構いろんなことわかるよね。

平木： 慣れてきますからね。

最初は、もっと英語とか使わなくちゃいけないのかなってか、心配した・・・

柳井： 合同クラスは、ほら、半年くらいですぐ学生が入れ代わるもんね。

平木： そうそうそうそうそう。なんか、最初は、もっと英語とか使わなくちゃいけないのかなってか、えらい心配した覚えがある。

柳井： そうそうそうそう！！私も英語の辞書とか持っていったもん。

2人： そうそうそうそうそう！！

柳井： でも、ぜんぜんいらなかったよね。

平木： うん、なんか絵とか描いちゃったりなんかして。

柳井： 絵、うまいもんね。

平木： もう、ちょっとわからなかったら、絵で全部説明。えへへ。

柳井： でも、そっちの方がね、いいと思う。英語とか、一番最初のころとかは英語、単語は、まあ、使ってもいいかなって思ったけど。だんだん慣れてきたら。ほんと、一番最初から日本語だけがいいだろうし。最初は言い回しとか限られてるから、伝わると思うし。

なかなか、会話は一番最初ではできなかった。どの日本語が相手がわかるか、わからなかったから。

平木： 最初は、「あいうえお」から習う人たちだからあ。

柳井： そうそう。そうだね。ただ、なんかその、合同クラスに、一番最初に参加したときに、どうやって話を進めていいかわからなくて。

平木： ああ、むずかしかった。

柳井： 読む練習だと思ったの、あのプリントを"。で、「読んでください」とか言って、「読めません」って。

平木： 「じゃあ、読めますよ」みたいな。

柳井： なかなか、会話は一番最初はできなかった。

小池： どの日本語が相手がわかるか、わからなかったから。

柳井： そうそう、それあるよね。

平木： 何回も何回も、言い換えて×5ってね。どれが通じるんだって。

日本語が下手なのは自分だと思ってね。私は日本人なのか、ほんとに？！

柳井： そうそう、それで、案外自分が言い換えられないことに気づいてね。日本語が下手なのは自分だと思ってね。

平木： 私は日本人なのか、ほんとに？！ ほんと、知らないよ。

柳井： だって、助詞とかも、普段意識して使っているわけじゃないから、「なんで、この助詞を使うんですか？」って言われたときに、私は説明ができなくて。例えばね「田中さんが来たら、会議を始めましょう」っていうのと、田中さん「が」と「は」の違いとかなんかを…微妙に…、宿題を手伝ったときに、ぜんぜん答えられなかったことがある。



平木： これがまた、難しかったりするんですよね。

小池： 留学生は絶対助詞はあげてきて、「に」とか「へ」とか。

柳井： そうそう、「に」と「へ」もね。そうそう「公園で」「公園へ」「公園に」。何が違うの？って。1回宿題を手伝ってあげたときに、「これで、OK。大

丈夫よ」って。でも、次の日「まちがってます」って。

3人：「ははははは(笑)」

柳井：「3つくらい、まちがってるところがあります」って言われて、すごくはずかしかったことがある。

平木： けっこう、ショックね、それ。正確な日本語ってむずかしい。



最初は、やっぱり日本語について考えるよね。あと、日本人の考え方とか。

柳井： ただ、あの、最初はなんか、外国のことも知りたいし、何て言えбайいんだろう?……人の考え、外国に住んでる人の考えも知りたいって思ったけど。それと、たぶん同時に、クラスに参加したら、日本語とかをちゃんと意識するようにはなったと思った。

平木： ああ、日本についてとかもね。

柳井： うん、これは正しいこと?、とかね。最初は、やっぱり日本語について考えるよね。この使い方はいいのかなって考えたりするけど。あと、日本人の考え方とか。これは、日本人の常識だ。それとも、私の常識? 教えるのにやっぱりね……

平木： 一概にこう言っているのかね。

柳井： そう、言っているのかどうかわからないときは、人に聞く(平木さんを指差す)。クラスのときに「こうだっけ?」って聞いて、「違いますよ」って。

平木： 私はこう思うとか言って。

柳井： そう、私はそう思うけれども、他の人は違うかもしれないって言うのを言わないと誤解されるかな?

平木： なんか、結構考えたりしますよね。だからといって、言わないわけにはいかないし。聞かれてるから。

柳井： そうそう。「はっきり言ってください」ってね。

どうして始めたの？

平木： 柳井さんは、なんで始めたんですか？

柳井： 私は、さっきも言ったけど、4年生の後期って、もう授業がほとんどなくって余裕ができたのと。まあ、たぶん、何か知りたかったからかな。なんなんだろう。微妙な…心の変化かな？ 今までは、ぜんぜんそういうことに興味もなかったし、世界地図とかも見たこともなかったけど(ええっ!!)、見ようとも思わなかったの。やっぱり、卒業なんかを間近にして、自分は何をやりたいんだろうって、いろいろ考えたときに、やっぱりいろいろ残しておこうって、考えたの…かもね？(ニコッ)

平木： ええっ!!かもねって、かもねって?!

柳井： そうかもねって。まみこちゃんは？

平木： はやいよね。

柳井： はやいよね、目覚めが。

小池： 私は、大学に入って、大学のイメージが、なんか違った。

柳井： そうなんだ。

最初は英語も勉強できるのかなって、ちょっと思ったけど。実際話をしてみると、英語以前に自分の日本語がまずいって。

小池： 初めは、なんか勉強ばかりでいいのかなって。1年生のころっていそがしいし、教養とかもあるから。でも、2年生になったときに、何かしたいという気持ちがあって、たまたま、「学園だより」を見たら、留学生の会話のパートナーをしてみませんかというのがある。最初は英語も勉強できるのかなって、ちょっと思ったけど。

平木： やっぱ、思うよね。

小池： でも、実際行って話をしてみると、英語以前に自分の日本語がまずいって。

柳井： そうそうそう、私もそう思った。英語より先に、日本語をやらないとダメだって思った。

小池： 日本語がまずいっていうのに、まず気がついて。で、勉強を始めて、

話しているうちに、なんかだんだん必要性がわかって。でも、今年は……私が初めてパートナーをやった人は、日本語を 2 年勉強してきた人だったから。

柳井：じゃ、もう、かなり話せたんだ。

小池：今年は実際、会話の合同クラスに行ってみたら、ものすごく難しいと思って。どの日本語がまず通じるのか？

柳井：そうだよな。なんか少し言い方、順番とかが変わってしまったら、もう、それで、あと異様に長い文にしてみたりとかすると。

小池：うん、だから、すごくいい勉強になったなって。

柳井：美千代ちゃんは、なんで？

なんか、前から興味があつて。長崎って国際って感じがするのに、実際大学に入ってみると、ぜんぜん、そういうのがなくて、きっかけとかも、こう転がってなくて。

平木：なんか、前から興味があつて、なんか長崎って国際って感じがするのに、実際入ってみると、ぜんぜん、そういうのがなくて、きっかけとかも、こう転がってなくて。そこらへんにあるんだけど、こう、あんまり身近な感じがなくて。そしたら、友達が、時間があいてきたころに、ちょうど誘ってくれて、「おっ、行ってみよう」って思っ。そんな感じがすね。

柳井：私も、音楽科に留学生の……韓国と姉妹校みたいになっているところがあつて、毎回こちら側が行ったり、向こう側が来たり、1 年間ずつ交代でやってるのね。で、その人とは、やっぱりだんだん仲良くなったりすると、音楽性の違いっていうか、国民性の違いからではないかもしれないけど、やっぱり違うルーツを持ってる、けど、まあ共通のものを勉強するということで、たぶん、そういうのからおもしろいと思ったのかもしれない。それから教育学部の掲示板で松本先生のアナウンスを見たんだ、その会話パートナーの。で先生に電話したんだ。だから、本当は興味を持っている人は、結構たくさんいると思う。

興味はあっても、結構、来にくいっていうのがあるみたい。

初めはやっぱりドキドキするよね。

平木： 誘ったら興味あるっていう人、結構いるんですよね。

柳井： そうそう。

平木： でも、結構、来にくいっていうのがあるみたい。

小池： 初めは、やっぱり。

柳井： そうだね、初めはやっぱりドキドキするよね。

平木： で、語彙とか、ぜんぜん単語とか私知らないって思ったもん、最初。

柳井： 私も、なんか、こういうふうに、最初にクラスに入ったときに、それぞれ

国が違う留学生さん
たち^{!!!}がたくさんいた
のを見て、まず、結構
「あれ？」とか……。

平木： そうそうそうそう、イメージが。

柳井： あって。私は、どの人と
どういうふうに話せば
いいの？って思っ
て、最初はビックリした

けど。でも、2 回目からは、もうぜんぜん、結構、みんなすごい楽しい
感じで会話ができるっていうか。それから、やっぱり、すごく楽しくなっ
たし、うん。

平木： そうですね。

柳井： 6ヶ月間であれだけできて、なんかすごいよね。がんばってね。

平木： うん、またね、成長が楽しい。めきめき上手になるし。(そうそうそう。)
漢字なんか途中で書き出したら、(声をみんなでそろえて)うえーー
ーっ、すごい！って。

小池： 留学生のためにもなるけど、最後考えると自分のためになる。

柳井： なってるよね、かなり。



最初のきっかけは会話パートナーで。その後も友達として。

平木： 前の会話パートナーは、フィリピンの学生だったから、小学校から英語教育受けてきてるんですよ。で、最初の何ヶ月間は、やっぱり日本語をずっとやって、でも最後の方は、最初の 1 時間は、じゃあ日本語だけ話して、あとの時間は、じゃ、英語だけ話そうねって。(ああ、いいね。)しっかり勉強させてもらって。そういう機会をもらったのは、すごくよかった。快く引き受けてくれて、私の下手くそな英語を辛抱強く聞いてくれて。

柳井： でもね、なんか、そうやって、会話パートナーから、少し、もう少しなんか近くなっているか、友達になるわけだから、それぞれ自由にね。

平木： そうそう、お好み焼きとか食べに行くみたいな。テンプラを食べにいいとかね。

柳井： そういうの楽しいみたいね。あと会話会話ってあんまり意識しなくても、話をするとき、まあ、日本語で話すのがメインであっても、ちゃんと、なんかコミュニケーションとかとれるし。

小池： だから、最初のきっかけは会話パートナーで。きっかけが、ぜんぜん学校にいたらないから、その最初のきっかけが会話パートナーと合同クラスで、その後も友達として。

柳井： そうね。ふだんから、つきあっていけば、友達になれるしね。

平木： きっかけとしては、それいいよね。

自分から留学生に話しかけるのは「こわい」っていうか、勇気がない。

小池： あと、自分から話しかけるのは「こわい」っていうか、勇気がない。

平木： 学内で歩いてたって、ふつう話しかけないよね。留学生が歩いていからって、「はい！！」とか言いかけたら、びっくりするよね。

柳井： でも、今見たら、だいたい、もうわ



からない？

平木：「おっ、んじゃ」つとか言ってね。

柳井：誰と会っても話してる。

きれいな日本語を話そうってふうに心がけるようにはなった。留学生と話すときに。

平木：最初のころ、私、「早口」をすごい言われた。

柳井：ああ、話すのが早い。

平木：（泣きながら）「ゆっくり話してくださいーい」って。

柳井：私も言われた。

平木：いまだに言われるって。

柳井：まだ、わかりません。そんなに早く話されてもわかりませんみたいな感じで。きれいな日本語を話そうってふうに心がけるようにはなったような。

平木：ああ、留学生と話すときに。

柳井：そうそうそう。だから、なんかふだんから、私、結構、ぶっきらぼうに、わーって言ってしまう方だけど、なんかそれを、なんかきちっと置き換えて、考えて話さないと、やっぱりなんか、だめかな。

平木：あっ、なんか考える。短い文章で、まとまった文章で、わかりやすくてっていうのを。

柳井：なおかつ、美しく。

平木：発音もきれいにっとか、なんとかしようっとかいうことを、してるかな。なんか、いつのまにか、してるかもしれない。

小池：初めは意識してたけど、それが自然にできるようになるから。

平木：なんか気がつくと、留学生の前でしゃべってる自分と普通にしゃべってる自分が、ぜんぜん違うとか。「そうなんですか？」「そうですか？」とか、妙に丁寧やったりする自分に気がつく。

柳井：丁寧にしとかないとなって。それは、私も最初はすごい思った。

最初は、もう、なんかぜんぜん相手のこととか考えてなくて・・・

平木： 最初は、もう、なんかぜんぜん相手のこととか考えてなくて、「とかだったりなんかしちやったりなんかして」って。絶対わかんない。「だと思ふような気もしないこともないんだけど」とか、わかるわけない。

柳井： できあって。

平木： そうそうそうそう。それも、なんか、会話パートナーにすごい言われたことがあって、なんかそういう、なんだっけ？ あっ、「行こう」とか普通に言うじゃん。あれが、「行きませんか？」とかじゃないと留学生にはわからないとか言われて、「あっ、そっかあ」って思っ。

柳井： 「なんとかですか？」って聞かれて、「あっ、そうなんじゃない」とか言ったときには「そうだと思いますよ」って言わないとまずかったって、思ったりしたこととかはあった。

平木： 気がつかない言葉のあれが。

柳井： だから、やっぱり、ね、丁寧な言葉話すこととかは、たぶん、それはなんか、外国人の人が相手じゃなくても、大切なんだけどね。基本的なことだからね。

平木： 丁寧語、丁寧語。

人とコミュニケーションはかるときに、やっぱり伝えようとする意思とかは、すごい必要な。

柳井： うん、きちっとした日本語を使いたいっていうのは、だんだんやっぱり、そういう気持ちは強くなってたような気がするけどね。あとはね、例えばなんか、人にものを伝えるときに、例えば、お互い言葉が本当に違って、まあ、日本語で話すんだけど、こちらもいろいろ考えて、むしろはやっぱり語彙が少ないから、必死にわかろうとするでしょ、まあ、そういう場合に私もきちっと何ていうんだろう。強い意志を持って伝えようとしないとダメなのかなって思ったら、なんかそういうのってあまり意識してなかったけど、大切なことかなって。人とコミュニケーションはかるときに、やっぱり伝えようとする意思とかは、すごい必要な。

平木： どうでもいいって思って話したら、伝わらなかったりするし。

柳井： 意味ないね。

平木： 意味ないじゃん。

今まで、女だから、日本人だからって、そういうわけじゃないかもしれないけど、けっこう曖昧な言い方で、結論も曖昧だったりすることが多かったけど

柳井： そうよね、なんか、私今まで、女だから、日本人だからって、そういうわけじゃないかもしれないけど、けっこう曖昧な言い方で、なんか結論も曖昧だったりすることが多かったけど、合同クラスとかに参加してみても、やっぱり「どうなんですか？」「だから、あなたの意見は何なんですか？」「どういうふうに考えてるんですか？」って言われたときに、自分の意見をはっきり、なんか、そういうのをまあ、自分が先に、はっきりした意志を持つっていうのと、なおかつ、相手にそれをきちっと伝えるってことが一番大切なのかなって。そしたらやっぱり、理解しあえることになると思うし。それは、すごく大切なこと。

わからなくても、曖昧に「まあね」とか。やっぱり、何回も何回も聞かなくちゃいけないのが申し訳なかったりするのね。

平木： 最初の方とか、特に相手は何を言いたいのかってわからないことって多いじゃないですか。

柳井： そうそう、それでわからなくても、曖昧に「まあね」とか。

平木： 「ああ、ああ」とか言っておいたら……

柳井： 「あっ、わかった」とかね。

平木： それが、なんか……フィードバックの紙に、そういうのがあるっていうのを書いてあるのを見て、「ああ、やっぱり良くないかな」って思って。なんか「相手の話を最後まで聞くようにしよう」って思うけど、でも、結構やっぱり、何回も何回も聞かなくちゃいけないのが申し訳なかったりするのね。こうね、「ごめん、もう 1 回」「うーん、もう 1 回」とか言いながらね。

でも今は、相手がわかるまで説明をするし、質問の意味がわからなかったら、相手に何回も言い方を変えて聞く。

柳井： 私も最初のころは、いつも笑いながら、返事をしたりとかね。「ああ、そうなんですか」「そうですか」って、ぜんぜんわかってないのに、笑顔で返事をするものだから、向こうも伝わったと思って「で、どうなの？」って聞かれたときに、ぜんぜんわかってなくて「はい？」とか。そういうこともあったかな？！今は、だからもう、相手がわかるまで、こっちも説明をするし、自分が質問の意味がわからなかったら、相手に何回も、もうほんとに、言い方を変えて聞くようにすれば、向こうも言い方を変えて答えてくれるわけだから、そういうのでわかるよね。



みんなも同じようなことを困ったんだなって、安心ができて。

小池： 私も最初、会話パートナーの人が上手だったから、なんか結構自然に話してて。やっぱりゆっくり話したり、わかるように話したりとかしてて、仲良くなってしまうと、それがだんだん薄れていって。でも今度、会話の合同クラスに来たときに、改めてやっぱり、ふだんの自分の言い方とか思い返してみたら、ひさびさになんか改めて「大切だな」って感じて。で、なんか心配なこととか、悩み事とか、クラスのフィードバックの紙を見ると、「みんなも同じようなことを困ったんだな」って。

柳井： そうそう、「この人も思ったんだ」って思ってね。

小池： そうそう。それで安心ができて、すごくあれはいいなと思ったんだだけ

ど。

柳井： そうだね。なんか自分は例えばこのトピックで、自分はなんか言葉につまってとか、なんか、ここで終了してしまったのを、他の人はこういうふうに進めてたっていうのをわかったら、それはすごい参考にする。「ああ、この人はこういう解説の方法をとってたんだ」とか「ああ、こういうふうに話が広がって、おもしろそうだな」とか。

最初は、話を広げることができなかった、あんまり。

平木： 最初は、私、話を広げることができなかった、あんまり。

柳井： 一番できそうなのにね。

平木： 最初、なんかね、このシートをちゃんとやろうと思って。すごいシートどおりに、こう、見入ってた。

柳井： でも、私も、一番最初はやっぱりそんな感じが。

平木： なんかね、質問の仕方とかもよくわかってなくて。

柳井： そう、ずっと見て、読み上げるだけでしょ。

平木： お互いにこう聞いて聞いて、「はい、終わり。次」みたいな。でも、なんかこう慣れてくると、もっと。

柳井： 違う話に。

平木： そうそうそう、そのトピックから関係のあるなんか、でも全く関係ないこととか、ふと思ったこととか、「そういえば、この前見かけた」とか。「昨日おもしろいテレビがあった」とか、ぜんぜん関係のないような話もできるようになってきたけど。

柳井： そうそう、でもほんと慣れたら、そういうふうになってくるし、留学生さんたちも、たぶん慣れたら、そういうなんかね、気持ちの余裕みたいなのが。一番最初は、みんな、少しはね、緊張ではないけど、少し構えるところがあるかもしれないけど。慣れたらやっぱりね、なじみの顔の人と話をして、なんかおもしろそうにしてる。

小池： 最初に、やっぱり困らないと、どうにか解決しようとか思わないし。あったほうが、すごい仲良くなるし、大切だなんて思えるかな。

日常生活とかは、みんなそれぞれ違うけど共通点とかもあるし、そういうのは、やっぱり、話がしやすかった。

柳井： やっぱり、日常生活とかは、みんな、なんかそれぞれ違うけど共通点とかもあるし、そういうのはやっぱりね、生活の仕方とかは話がしやすかった。あとね、長崎に関することは、話はすごいいつもしやすいと思う。なんか、ね、お互い住んでるわけだし。

平木： 地図とか描けたりして。

柳井： うん、そうそうそうそう、よく行くお店とかね。ここは楽しいよおとかいうのを教えてあげたりすると、向こうの方が実はよく知ってるとか。

平木： そうそうそう、あるある。

柳井： あるよね。そういうトピックで進める。

平木： 学校の話とかも結構盛り上がる。

柳井： 学校、おもしろいよね。

平木： うん、学校の話。やっぱり学校制度とかがいろいろ違ったりするから、うちはこう、あそこはこうとか、もう表まで作っちゃったりなんかして。何年、何年、何年。「おお、こんなに違うのね」みたいな。制服とかも絵に描いてからこう、向こうも描いてくれるの、制服の絵。

柳井： 私は結構食べ物の話が多い。

平木： ああ、食べ物。どれが作れる？とか。

柳井： そうそう、日本で食べ物好き？とか。案外、日本の食べ物すごい向こうは作ってて、私はぜんぜん料理はしないって。

平木： ああ、あるある。そういうのある。「作れるの？」みたいな。「すごいね」って。

柳井： 旅行の話とかも…。そういうふうになっていったら、もう、どんどん自然に話ができるようになってるよね。

平木： 音楽とかね。結構テープ貸してもらったり、CD 貸してもらったりね、する。

柳井： そうそう、本当にこんな音楽なんだって思ったりもするしね。

小池： お互いのことが少しずつわかっていけば、自然とそういうふうに仲良くなれるし。

でも、宗教観とかは本当に違ったりする場合があるから、それはね、もうビックリ。

柳井： で、やっぱり共通点とかもあるし。でも、例えば宗教観とかは、もう、本当に違ったりする場合があるから、それはね、もうビックリ。

平木： そう、すごいビックリすること多い。

柳井： 最初のうちは、例えばなんか、何を聞いたらタブーなのかとか、やってはいけないこととか、あんまりこれは話し合わない方がいいんじゃないかっていうこととかは、どうしたらいいんだろうって、最初は思ってたけど。

知識がねえ、ないもんね。特にイスラム教について。

小池： それは、私も、最初の会話パートナーの人がイスラム教だったから、全くイスラム教に対して…

平木： 知識がねえ、ないもんね。

柳井： 私もね、知識がなくて。

小池： 初め聞いたところに「失礼だ」とか言われたけど、でも、そこは自然に「ここはこうなんだよ」って教えてもらった。

平木： そうそうそう、言われないとわからないからね。

小池： でも、ぜんぜんそれは怒ってるわけじゃなくって、知って欲しいっていう感じで。

平木： ふふ、一枚うわてやね。気持ちが大きいね。でも、そう、そうやって教えてくれるとありがたいね。

柳井： 特にそうだよ、イスラム教に関して、ほんとに、やっぱり知識がぜんぜん、最初はなかったから。

小池： でも、仲良くなりたいから本を読んだりとか。

柳井： そうそう、少しね調べたりとかすると、「ああ、こういう



ことだったのね」とか。で、やっぱり、その人の国の歴史ではないけど、ちょっと政治のこととか、なんか問題があったりするときに、そういうトピックって、どこまで仲良くなったら話してもいいかなとか思ったりしたときもあった。

信頼関係とかが生まれていけば、何でもほんとに話せるようになるよね。

平木： 結構でも、なんでも実は話せたりする。

柳井： だから、もう、だんだんやっぱり信用して、信頼関係とかが生まれていけば、何でもほんとに、話せるように、心を開いてくれればうまくいくしね。

小池： 意外とみんな、自分の国の歴史とか地理とか知ってて。でも、こっちはぜんぜん知らないから「ああ、ちゃんと言わなきゃ」って。

平木： そうそう、プレゼンとか見ても、自分がそこまでできるかってね、いつも考える。「なんでそんなこと知ってるの？」って。すごいなって。

両方、目を向けるようになるよね。相手の国と、それと同じくらい自分の国のことについて知っておかないとって思う気持ちが強くなってきたよね。

柳井： そうだね。住んでるからっていって、その、なんか例えば日本のこととか、全部、きちっとなんか、例えば習慣とか、ちょっとした決まりとか、伝統的なこととか、全部を知ってるわけじゃ、やっぱりないなって。

小池： 改めて、日本のことも知ることができて。

柳井： そうそう、両方、目を向けるようになるよね。相手の国とか、他の友達の国のことも知りたいし、それと同時にやっぱり、それと同じくらい日本、自分の国のことについて知っておかないとって、やっぱり思う気持ちが強くなってきたよね。

平木： そうそう、向こうが説明してくれるだけ、やっぱ、こっちも説明してあげたいっていう気持ちが出てくれば出てくるほど、でも、知らないから、なんか知っとかないとって。

3人：うん(納得)

柳井： たぶんやっぱり、留学生の人とやっぱり、いっしょにいたりとか、そういうふうにつきあったりする中で、やっぱりね、なんか、「自分は日本人だし」っていう認識とかも、ちょっとまた高まるだろうし。日本についてのね、関心とかさ、そういうのも、やっぱり高まってくるよね。

小池： 留学生から、「日本人のこういう所がいいね」って言われたら、「あっ、いいんだ」って、うれしい。

平木： うん、うれしいうれしい、うれしくなる。

小池： 「これは、どうしてこうするの？」って言われたら、あっ、改めて「なんだろう」って。

平木： 考える、考える。

「どうして意見をはっきり言わないの？」って言われて。自分の意見をやっぱりちゃんと言わないとね。

柳井： そう、気づかなかつたりするよね。「どうして意見をはっきり言わないの？」って言われて。

平木： 「どうして女の子は主張しないの？」とか。ほうって。はあ、気になるんだって思っ



柳井： そう、相手がたぶんね気

になってて、なんか「どうしてだろう？」って思ってること、結構いっぱいあるのかもしれないって思ったりもする。まあ、でも、そういうのを言われたときに、「こうだからだと思っよ」っていうふうに、きちっと話がで

平木： 自分の意見をやっぱりちゃんと言わないとね。

柳井： だって、いつもだって、向こう側はなんか、自分の意見をはっきり言ってくれる人が多いような気がする。

小池： でも、はっきり言ってくれた方が、こっちもわかるし。

柳井： わかる、よくわかるよね。

平木： うん、よくわかる。だから、同じように、こっちもはっきり言った方が、向こうもよくわかるはずなんだけど。なかなか…

「じゃ、今度行こうね。」「いつ?」…いつ、いつ?「えっ、いつだろう?」って。

柳井： そうそう、まあ、日本人だけじゃないかもしれないし、全部の日本人がってわけじゃないけど、例えばなんか「カラ約束」みたいなのを、してしまうのが。

平木： ああ、「今度行こうね」とか。

柳井： 「今度ね」とか。

小池： 今度がない…

柳井： 「いつかね」って。いつ?って感じで。

平木： 「いつはいつ?」

柳井： なんか、そういうのでなんか…

3人： うーん(思いをはせる)

小池： うん、最初、それが、会話パートナーの人に「じゃ、今度行こうね」「いつ?」…いつ、いつ、いつ?「いつ?じゃあ、うーん」って。

柳井： そう、私も「いつ?」「えっ、いつだろう?」って。

小池： それからは気をつけるようになって。

柳井： そう、私もなった。

3人： (沈黙・考えこむ)

自分の中での変化とか?

柳井： なんかね、学校の授業とか、その、まあ、会話パートナーをやっぱり1年なり2年なり私たちはしているわけでしょ。だからその中で、やっぱり最初のころっていうか、自分の中での変化はどうだったかとか。だから、例えば、私は言葉に対する認識みたいのが、ほんとに少し強くなったのと。あと、やっぱり内面的なことを言えば、まあ、自分の意志を

はっきり伝えようっていうふうに、きちんと思うようになったっていうのもあるし。あとやっぱり、日本人としての何か自覚って言ったら大げさだけれども、やっぱり自分は日本人で、なんかこういうことを考えてるっていうのをきちんと伝えたいと、思うようになったりとか。

よその国じゃなくて、だれだれさんの国みたいな。なんか、すごいつながりっていうか……

平木： ああ、なんか……あの、よその国の地名とか出てきても、ほとんど知らない地名ばかりなんだけど、なんか、その国の人の地名だったり。

柳井： そう、後で調べるよね。

平木： なんかね、ニュースとかで、そういう地名が流れてきたときに、「あつ、だれだれさんの国だ！！」と思うと、結構身近に感じたり、そういうことは多くなったな。

柳井： そうそう、なんか、そうよね。

平木： よその国じゃなくて、だれだれさんの国みたいな。なんか、すごいつながりっていうか、共感っていうか。

関心みたいなのは、どんどん広がっていくよね。

世界とか、まあ、大げさかもしれないけど、平和とか……

柳井： 今まで何かの話とかニュースとか、もう情報で知らない国のことがバナーと出てもね、今はやっぱり調べたり、するもん。どういう国で、どこにあるんだろうって。何で問題が起こってるのかしらって。へえ、今、こういうお祭りがあってるんだとか。そういう、なんか、興味・関心みたいなのは、どんどん、どんどんやっぱり、広がっていくよね。留学生の人と仲良くすれば仲良くするほどっていうか、いろんな人と出会えば出会うほど、そういう気持ちはやっぱり大きくなっていくから。それは、自分の中では、すごいうれしいことだし。やっぱりね、2年前くらいまでは日本人っていうか、日本のことしか知らなかった。まあ、それも、あんまり、やっぱり知らなかったと思うし。でも、今はやっぱり、世界とか例えば、まあ、大げさかもしれないけど、平和とか、そういうのはすごい考え

る。みんな、なんか仲良くしないって。

いろんな考え方の違いがあるとかいうのも、留学生の方がよっぽど、いっぱい受け入れてる。

平木： それに、なんか、いろんな考え方の違いがあるとかいうのも、ね、なんか、留学生の方がよっぽど、いっぱい受け入れてる。そういう態度を見て、なんか、どういうふうに受け取っていけばいいのかなとか。違いは違いつて。

柳井： まあ、人種が違うからって、考え方が違うとは、もちろん限らないこともあるけど、やっぱり何か違う意見があったときに、自分と違うものを見つけたときに、そういう違いを認めあうか。なんか、そういうのは、どんな態度でっていうか、どういう対処法をとっていけばいいのかっていうのは、たぶんこの 2 年間で学んだような気がするし。それとは別に、どんなに国が離れたりとか、ほんと知らない国の知らない国の人でとか思っても、すごい共通点があったりとかするわけ。だから、それを見つけたのも、もちろん楽しいわけだし。で、相手もすごいうれしいし。そういうふうに思ったときに、ね、やっぱり違いとか、まあ、合い入れないことも含めて、自分たちは認めあって、まあ、信頼関係を築くこともできるわけだし。言葉の、だから、練習とか、そういうことだけじゃなくて。うん、そういうことは考えるようになったかな、やっぱり。まみこちゃん？

自分の偏見に気づいて。自分の中の外国人っていうのは、例えばアメリカ人とか、白人さんのイメージが強かったから、「おおおおおっ！！肌の色が違う！！」ってビックリして。

小池： 私は…。たぶん 3 年前、その会話パートナーを始めたころの自分は、偏見が大きかったというか。初めて会話のパートナーの人に会うっていうときに、マレーシアの人だから、日本人の人よりも、やっぱり少し肌の色が黒いし。私それまで…私そのときに「はっ、どこの国の人だろう？」ってビックリしたっていうか。そのとき、自分の偏見に気づいて。

私、自分の中の外国人っていうのは、なんか、例えばアメリカ人とか、白人さんのイメージが強かったから、会ったときに「おおおおおおっ！！肌の色が違う！！」ってビックリして。すごい偏見なんですけど。

柳井： ああ、ほんとに？

小池： なんか、そのときに、自分に

ショックを受けたっていうか。「ああ、私って、たぶん、すごい偏見を持ってたんだろうな」って思っ

柳井： ま、でも、それは、単にビックリしただけかもしれないし。



「うわあ、イスラム教だ！！」って思っ

小池： で、次にイスラム教って聞いたときに、ニュースとかのイメージが強くて、「うわあ、イスラム教だ！！」って思っ

でも、そのとき、うん、ほんとと最初のころ、なんか「どうしよ、どうしよう」そればかり考えて、何を話せばいいのか、何を話したらいけないのかって。で、友達にこういうことを始めたって言ったら「大丈夫なの？」って言われて、なんか、ニュースとかで...

平木： 心配されたの(笑)？

なんか、テレビのイメージがすごく強くて、...固定観念ができちゃってるのかもしれない。

小池： うん、すごく心配されて、「私って、なんか、すごく大変なことを始めちゃったの？」って思ってたんですけど。うん、今考えるとほんと、すごい偏見のかたまりだったと。なんか、テレビのイメージがすごく強くて、ほんと、アフリカっていったら、「たくさんライオンがたぶん走ってるんだろうな」とか。

柳井：マンガやん、それ。

小池：そう、ガーナっていったら「チョコレートばかり食べてるのかな？」とか、ほんと、そのテレビの中のイメージとかで。

平木：教科書とかね。

柳井：まあ、確かに情報量が少ないと…

平木：固定観念ができちゃってるのかもしれない。

小池：そう、それが初め強くって。でも、会ったからにはどうにかしなくちゃいけないって思っで。で、絶対週に1度は2時間、必ず留学生センターで話して、それだけじゃたぶん足りないって思ったから、絶対土曜日にはどこか遊びに行くって。

平木：おお、いいねえ。

柳井：どれ、おもしろーい。



別に、普通に考えてることはいっしょで、習慣がいっしょだったりすると、同じ人間なんだなって思っで、当たり前なんですけど…

小池：うん、絶対決めたんですよ。決めたら逃げられないでしょ。だから、約束したから行かなくちゃって思っで行って、そしたら、なんかだんだん、同じ、別に、何も普通に考えてることはいっしょで、なんかしてる習慣がいっしょだったりすると、同じ人間なんだなって思っで、当たり前なんですけど、初め、それがぜんぜんわからなくって。

平木：そうだよな。

柳井：初めはね。

心を開いてくれるから、電話してくれる。悩み事とか言われると、「あっ、仲良くなったんだな」って。

小池： それで、夜とかに「さみしいから」って言って電話をかけてくると、「あっ、少し、仲良くなったかな」って思っ

柳井： そうそう、心を開いてくれるから、電話してくれる。

小池： で、悩み事とか言われると、「あっ、なんか私頼られてる。」「あっ、仲良くなったんだな」って、そういう所から少しずつ感じてきて。で、イスラムの話も、最初は「どうして、どうして？」「なんで、なんで？」って感じだったけど、それも、少しずつ受け入れられてきて、本とか読んだりして、彼らの考えなり、どうしてそうするのか少しずつ受入れられてきて、自分もいっしょにイスラムのことをやってみたりすると、始め見たら「うわっ」って思ってたことが、いっしょにやってみることで、なんか自然に思えるというか。なんか、反対にそっちの方が、「えっ、なんで、いやだ」っていうよりは、いっしょにやってみると、結構いっしょのことを感じられたりとか、「あっ、こんなことだったんだな」とか、うれしいっていうか、「いっしょのことができた」っていうか。で、相手も、自分の国の言葉を知ってほしいとか、いろいろあるから、いっしょに勉強してみたりすると、すごく喜んでくれて。

柳井： そうそう。

けんかできるっていいよね。同じ土俵に立ったってことだもんね。

小池： それが、なんか、自分の喜びになってきて。で、すごく仲良くなれて、2年目は、私家族といっしょに住んでるんですけど、彼も来て、ホームステイを1年間、いっしょに住んでたんですけど。その中で、そのうちけんかとか始めちゃったんですよ。イスラムのことで、私が言ったことが彼の気にさわってしまって、彼がすごく怒ったときに、「あ、これは本当に失礼なことだったんだ」って思ったし。でも、けんかしても自然に仲良くなれるっていうか、いつの間にか…うん、長くいitんだなっていうのが感じられて。けんかしても、仲良くもどれる、なんか、普通に自然なことで。

柳井： なんかね、普通のことだよ。なんか、ちゃんとしたさ、いい人間関係だよ。

平木： でも、けんかできるっていいよね。

柳井： うん、けんかできるのも、すごい大切なことだと思う。

平木： 同じ土俵に立ったってことだもんね。でも、どうしてもやっぱり、でも、どうしてもやっぱりなんか。

柳井： そうだね。

平木： やっぱり、どうしても日本のことを教えてあげなきゃって思ったりすると、なんか、立場的になんか、同じ土俵には立てないような感じはするけど。

その時は相手も日本に来たばかりで、私は留学生の人と交流を始めたばかりで、お互いを理解したりとか、受け入れたりするのが、どうしていいのかわからなかった時期だった。

柳井： 最初のときに、やっぱり本当にイスラム教で、で、その友達がすごいやっぱりけいけんなイスラム教徒で、で、そういう話をたくさんされたときに、私はまだなんかほんとに、その人は、まあ、会話パートナーじゃなかったんだけど、まあ友達で、そういううわあって話されたときに、もう混乱して、「私は神様を信じたことがないし、どの神様にも興味がないの」って言ってしまっ。そこからちょっと…

平木： 衝突？

柳井： うん。でもね、そのときはたぶん、その友達も、まだね、日本に来たばかりで、で、私は私でそういうなんか、ね、留学生の人と交流を始めたばかりで、お互いやっぱり、どういうふうになんか、ね、お互いを理解したりとか、なんか受け入れたりするのが、どうしていいのかわからなかった時期だったと思うのね。でも、それが、2年間くらいたって、まあ、その友達もずっとここに住んで、その頃と思い比べてみると「お互い、大人になったよね」って。っていうか、向こうは向こうで、日本に対するイメージが、やっぱり、国で持ってたイメージ、なんかこっちに実際住んで、人と関わっているわけではないから、やっぱりわからな

かっただろうし。やっぱり、留学っていうのは、そういう不安とか日常生活での困ったこととかあるだろうし。まあ、そういうふうになったときに、会話パートナーとか、そういう、役割だけではなくて、友達としてのサポートとかも必要なんだなって思ったら、やっぱり、私も言葉とか気をつければよかったと思うし、向こうもやっぱり、自分の意見だけを押し付けしないで、人の意見も聞くべきだと思うし。なんかそういうのを考えたら、だんだん、やっぱりわかっていくことであって、最初は衝突したりもするよね。でも、衝突して、たぶんよかったかもね。最初に違いがわかるから、今度は、どうやってその人と仲良くしようっていうのは、お互い、また考えて、次に会ったりとかする。「あっ」って。少しずつ解決へっていうのはあるかもしれない。

考えや物の見方が広がったっていうか。人の意見をどういうふうに受け入れるかとか。それって、相手が外国人だからとか関係ないけどね。でも、それは留学生の人と関わったから、わかってきたことかもしれない。

小池： だから、3 年前の私は、すごくほんとその「は！」っていうショックから始まって、ほんとバカみたいな、なんか今考えると、ほんとバカみたいなことなんだけれども、それが、なんか、今 3 年たって変わって。1 年ごとに、「会話のパートナー 1 年目だね」とか、「そういえば 2 年目だね」とか言ってるうちに、なんか自然に。考えが、だから今は広がったっていうか。

平木： 物の見方とかもね。

柳井： うん、それは変わるよね。なんか、自分が今まで持ってたイメージと固定観念みたいなものだけで、判断は、絶対まあ、してはいけないことなんだけれども、しがちだったのは変わったかな。うん、そうでもないっていうのも変わったし。人の意見をどういうふうに受け入れるか、そういうのも、まあ、何て言えばいいのかな、それってだから、相手が外国人だからとか関係ないけどね。でも、それは留学生の人と関わったから、わかってきたことかもしれないしね。

それを日本人とつきあうときに、いかしたりもできるし。得るものは、すごい大きいよね。

小池： なんか、相手が何を大切として、自分も大切なものがあるように、相手にも大切なものがあって、それをまた、こっちも、どれだけ大切にしてあげるか。ほんと、こっちも一生懸命、一生懸命だったら、向こうも一生懸命返してくれるし。

柳井： やっぱ、気持ちだよな、そういうのってね。むこうの気持ちも伝わるし、自分の気持ちもきちんと伝えたいと思うし。

平木： 日本人同士でも、そうするべきなんだけど。留学生とだったら、より強調されて、それがなんか、わかってきたりする。それを日本人とつきあうときに、いかしたりもできるしね。

小池： 日本人同士だと、なんかお互い同じ常識がそこにあって、わかってるって。

柳井： そうそうそうそう、同じ習慣、同じ常識。

平木： あんまりそういうのが、出てこないのよね。こう、しなくちゃいけないんだけど、そういうのが、表立って出てこなくて。

柳井： それをね、実際言葉にしたりとか、考え直したりする機会が少ない。ね、やっぱり日本人同士だと「それ、当たり前でしょ」とか、やっぱり思ってる部分もあるし。

小池： 言わなくてもわかってくれてるっていう所が。

平木： 「なーなー」にしてしまうとか。

柳井： その部分ではやっぱり、留学生の友達とか、会話のパートナーがいるっていうことは、ぜんぜん日本人の友達といるときとは、やっぱり状況がまあ確かに違うよね。でも違うけどやっぱり、それなりに得るものは、すごい大きいよね。

平木： うん、勉強になる。

柳井： うん、勉強になるよね。自分の勉強になるよね。それで、ね、だんだん、日本語とかもぺらぺらになってくれたりすると、「ええ！！」って。すごいなって思ったり。

.....

3 人の熱のこもった話しぶりが皆さんにも伝わったことと思います。話はつきませんが、この辺で。

改めて、こうやって、3 人の話を聞いていると、みんな成長したんだなあ、いろんなことを感じたり、考えるようになったんだなあ、ととてもうれしくなりました。ありがとうございます！ 松本

-
- i 「会話合同クラス」は、留学生センターの日本語集中コースの中に設けられている留学生と日本人学生の会話クラスです。日本語集中コースは16週間のコースで、月曜日から金曜日まで毎日8:50から2:20まで授業があります。会話合同クラスは毎週水曜日の3限(12:50-2:20)に行っています。日本人学生は長崎大学の学生だけでなく、長崎の大学に在籍する学生であれば誰でも参加できます。
 - ii 現在、会話合同クラスでは、会話の補助としてプリントではなく、それらのプリントをベースにして作成した『留学生と日本人学生のための会話素材集-Let's get to know each other better!-』(長崎大学留学生センター)を使用しています。
 - iii 会話合同クラスは、学生が10人いるとしたら国籍も10カ国というように、世界の色々な地域から来た学生で構成されています。
 - iv クラスの最後に、フィードバック用紙を配布して、留学生と会話をしていて、どんなことに困ったか、どうやって解決しようとしたか、どんな話で盛り上がったか、というようなことについて記入してもらい、次の週のクラスの前に、全員の分をまとめて配布していました。現在は紙で配布もしていますが、MLに載せるようになっています。
 - v 会話合同クラスでは、コースの後半に留学生に自分の国についてプレゼンテーションをしてもらっています。

<付録>

- a. 会話のトピック 100
- b. 日本地図
- c. 世界地図
- d. 長崎大学の組織(学部・大学院)

会話のトピック 100

- 1 インタビュー (interview)
- 2 パートナーの紹介 (introducing your partner)
- 3 約束(1)(appointments-1)
- 4 ホームタウンから長崎まで (from your hometown to Nagasaki)
- 5 毎日の生活 (daily life)
- 6 週末 (weekends)
- 7 手紙と電話 (letters & telephone)
- 8 あさごはん・ひるごはん・ばんごはん (breakfast, lunch, dinner)
- 9 誕生日 (birthday)
- 10 スポーツ (sport)
- 11 音楽 (music)
- 12 踊り・ダンス (dance)
- 13 季節 (season)
- 14 ふるさと (hometown)
- 15 日本の家と留学生の国の家 (houses in Japan and your country)
- 16 学校制度 (school system)
- 17 緊急の場合 (emergency)
- 18 買い物 (shopping)
- 19 長崎で行きたい所 (places you want to go in Nagasaki)
- 20 ペット (pet)
- 21 家族 (family)
- 22 たばこ (smoking)
- 23 お酒 (drinking)
- 24 宗教 (religion)
- 25 学生生活 (campus life)
- 26 アルバイト (part-time job)
- 27 奨学金 (scholarship)
- 28 国内電話と国際電話 (domestic & international phone calls)

- 29 外国の通貨と円 (foreign currency & Japanese yen)
- 30 お風呂とシャワー (bath & shower)
- 31 温泉(hot spring)
- 32 トイレの種類と使い方(toilet)
- 33 友達(friends)
- 34 食べ物・飲み物
- 35 料理 (cooking)
- 36 遊び(playing)
- 37 フォーマルな会話とインフォーマルな会話(1) (formal & informal conversation-1)
- 38 フォーマルな会話とインフォーマルな会話(2) 男言葉・女言葉 (formal & informal conversation-2: words used by man・words used by woman)
- 39 あいさつ(1)(greetings-1)
- 40 見合い結婚・恋愛結婚 (arranged marriage & love marriage)
- 41 デート (dating)
- 42 結婚式 (wedding ceremony)
- 43 新婚旅行 (honey moon)
- 44 びっくりしたこと、こまったこと(things that surprised or troubled)
- 45 日本のイメージと留学生の国のイメージ
(image of Japan & of international student's country)
- 46 誘いを断るとき (how to refuse invitation)
- 47 ボランティア活動 (volunteer work)
- 48 割り勘・おごり (Dutch treat & treat)
- 49 残業と休日出勤 (working overtime & working on a holiday)
- 50 外人 (foreigner)
- 51 専門の研究 (research)
- 52 ゲーム (games)
- 53 日本での旅行(trips in Japan)
- 54 家を買う、家を建てる (own house)
- 55 アパート (housing for rent)
- 56 仕事と家事(outside work & housework)

組 織

学部及び大学院等

長崎大学には、次の学部と大学院研究科があります。

学 部：教育学部	(修業年限 4 年)
経済学部	(“ 4 年)
医 学 部	{ 医 学 科 (修業年限 6 年)
	{ 保健学科 (“ 4 年)
歯 学 部	(修業年限 6 年)
薬 学 部	(“ 4 年)
工 学 部	(“ 4 年)
環境科学部	(“ 4 年)
水産学部	(“ 4 年)

大学院：修 士 課 程

教育学研究科	(標準修業年限 2 年)
経済学研究科	(“ 2 年)
環境科学研究科	(“ 2 年)
生産科学研究科(博士前期課程)	(“ 2 年)
医歯薬学総合研究科(生命薬科学専攻・博士前期課程)	(標準修業年限 2 年)

博 士 課 程

生産科学研究科(博士後期課程)	(標準修業年限 3 年)
医歯薬学総合研究科(医療科学専攻)	(標準修業年限 4 年)
“ (新興感染症病態制御学系専攻)	(標準修業年限 4 年)
“ (放射線医療科学専攻)	(標準修業年限 4 年)
“ (生命薬科学専攻・博士後期課程)	(標準修業年限 3 年)

また、この他に熱帯医学研究所、附属図書館、医学部附属病院、歯学部附属病院、留学生センター、保健管理センターなどの施設があります。

教官は、教授303人、助教授242人、講師121人及び助手306人で構成されています。

2-2 学 生 数

学生の在籍者数は次のとおりです。

学部学生	7,359人 (90人)
大学院生	1,288人 (105人)
研究生等	160人 (31人)
合 計	8,807人 (226人)
(注) () は内数で外国人留学生数	

ORGANIZATION

Faculties and Graduate Schools

Nagasaki University is composed of the following undergraduate faculties and graduate schools:

Faculty

Faculty of Education	(4 years course)
Faculty of Economics	(4 years course)
School of Medicine(Medicine Department)	(6 years course)
School of Medicine(Health Sciences Department)	(4 years course)
School of Dentistry	(6 years course)
School of Pharmaceutical Sciences	(4 years course)
Faculty of Engineering	(4 years course)
Faculty of Environmental Studies	(4 years course)
Faculty of Fisheries	(4 years course)

Graduate School : Master's course

Graduate School of Education	(2 years course)
Graduate School of Economics	(2 years course)
Graduate School of Environmental Studies	(2 years course)
Graduate School of Science and Technology	(First 2 years Doctoral course)
Graduate School of Biomedical Sciences(Course of Pharmaceutical Sciences)	(First 2 years Doctoral course)

Graduate School : Doctoral course

Graduate School of Science and Technology	(Second 3 years Doctoral course)
Graduate School of Biomedical Sciences	(Course of Pharmaceutical Sciences)
	(Second 3 years Doctoral course)
Graduate School of Biomedical Sciences	(Course of Medical and Dental Sciences)
	(4 years course)
Graduate School of Biomedical Sciences	(Course of Infection Research)
	(4 years course)
Graduate School of Biomedical Sciences	(Course of Life Sciences and Radiation Research)
	(4 years course)

The University also has the Institute of Tropical Medicine, Library, Hospital attached to School of Medicine and Hospital attached to School of Dentistry, International Student Center and the Health Center.

As of May 1, 2002, the teaching staff consists of 303 professors, 242 associate professors, 121 assistant professors and 306 research associates.

2.2 Students Enrollment

As of May 1, 2002 the number of students enrolled is as follows:

Undergraduate Students	7,359 (90)
Graduate Students	1,288 (105)
Research Students etc.	160 (31)
Total	8,807 (226)

N.B. Parentheses indicate number of international students.

あ と が き

会話パートナープログラムを始めてから、はやいもので、もう 6 年になります。その間、たくさんの出会いがありました。パートナーの留学生と一緒に留学生の国へ行ってホームステイした人もいますし、卒業後も e-mail で連絡を取り続けている人もいます。大学を卒業して長崎を離れても、退会希望がないかぎり会話パートナープログラムの参加者はそのまま ML のメンバーです。たまに ML にアップしてくれることもあって、「わあ、懐かしい!!」という声も。

心理的な距離と物理的な距離の違いを実感している人も多いのでは？

世界の色々な場所が知り合った留学生と結びついて、何かの番組やニュースを見て、嬉しかったり、悲しかったり、心配したり、ほっとしたり……。今まで自分とは全く関係ないと思っていたことが、身近に感じられるようになったりしているのではないのでしょうか。

卒業後、小学校の教員になった日本人学生からメールをもらいました。少し引用しますね。「…会話パートナーをしてみてよかったと思います。自分に余裕があればもっとたくさんの人と会話をしたかったと思います。松本先生、お世話になりました。…今、戦争をしていますね。とても悲しいです。今テレビの NHK でアグネスチャンが戦争で犠牲になった子供たちの現状を訴えています。もっと大学時代に世界の文化を知っておけば先生になった時いろんなことを話せただろうなと思います。…」

今年も、この 3 月に卒業する人がたくさんいます。私は相変わらずここで皆さんを見送りながら、4 月からの新しい出会いを楽しみにしたいと思います。みなさんにとっても、たくさんの楽しい出会いがありますように！（松本）

【著者】

松本久美子

長崎大学留学生センター 准教授

*本書の内容等についての問い合わせは、
松本 (kumiko-m@nagasaki-u.ac.jp) まで

<イラスト・表紙>

神戸美穂

会話パートナー・ハンドブック Ver.3

初版	2000年10月1日
第2版	2003年4月1日
第3版	2004年4月1日
著者	松本久美子
発行	長崎大学留学生センター
	〒852-8521 長崎市文教町 1-14
	TEL 095-819-2242

